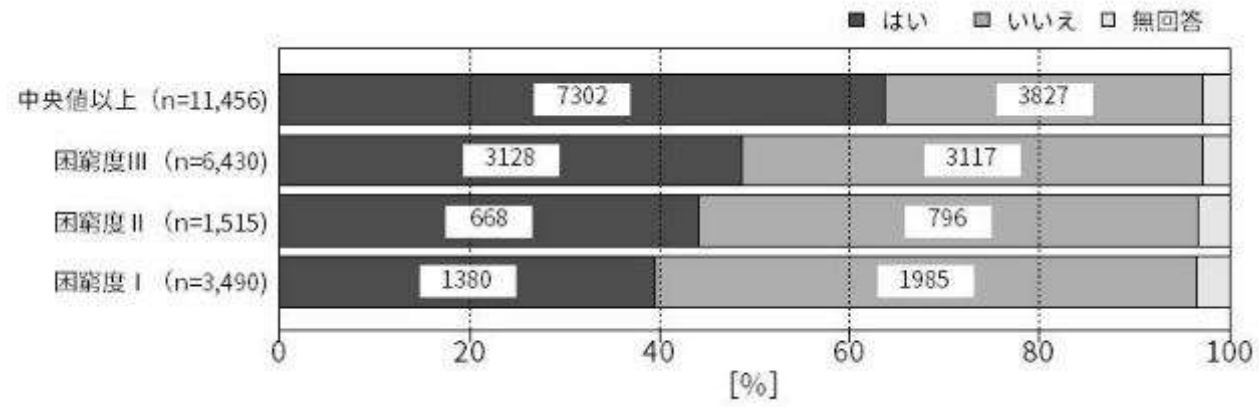
困窮度別に見た、定期的な健康診断の受診（保護者票　問 28）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

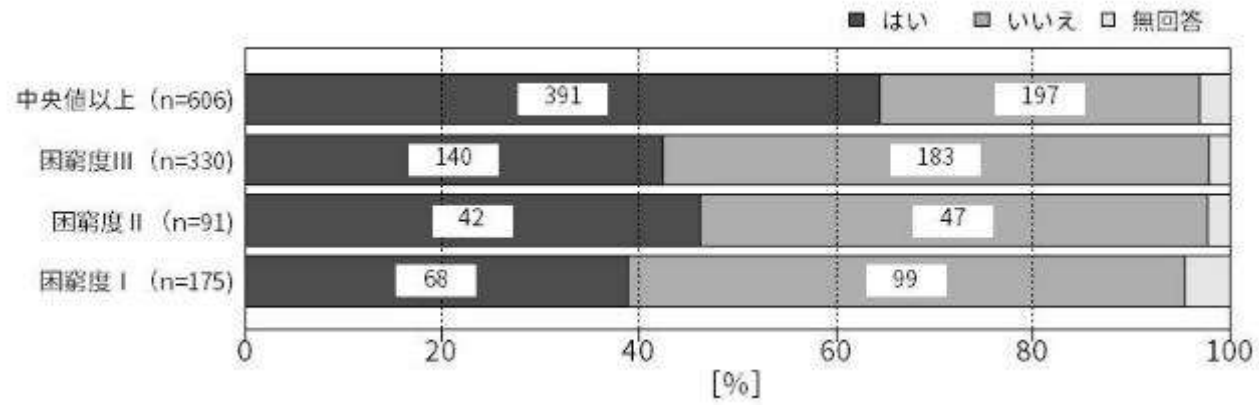
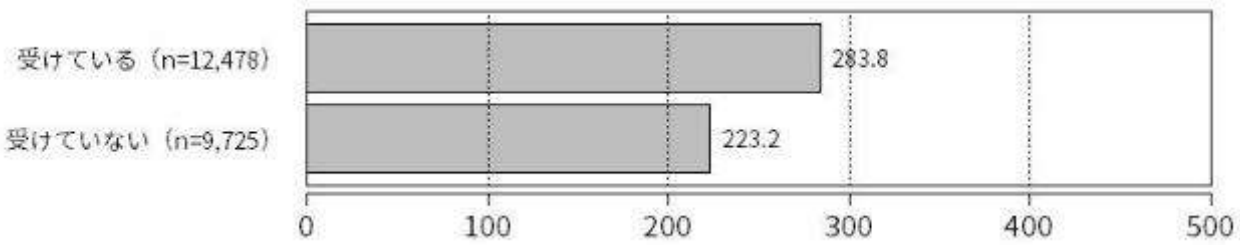


図 204. 困窮度別に見た、定期的な健康診断の受診

困窮度別に保護者の定期的な健康診断の受診を見ると、「受診あり」の回答の割合は中央値以上群がもっとも高く、それ以外は、低くなっている。

定期的な健康診断の受診別に見た、等価可処分所得の平均値（単位：万円）
（保護者票　問 28 × 保護者票　問 7）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

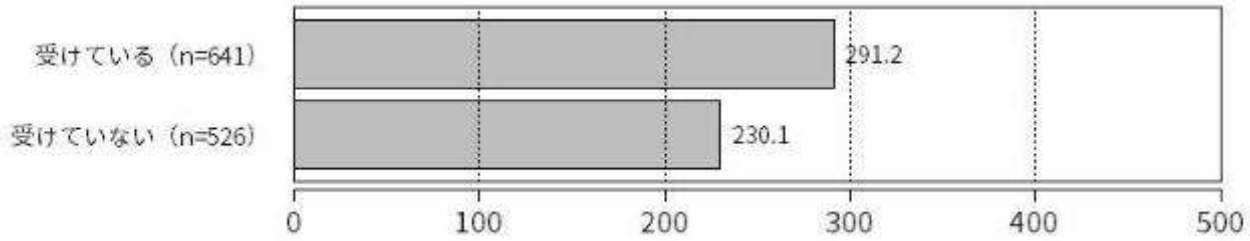


図 205. 定期的な健康診断の受診別に見た、等価可処分所得の平均値（単位：万円）

定期的な健康診断の受診別に等価の可処分所得額を算出すると、「受診あり」では 291.2 万円、「受診なし」では 230.1 万円と等価可処分所得について差が見られた。

＜健康に関する考察＞

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにつれ、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる割合が低くなっている。困窮度Ⅰ群では、週に1度も朝食を「食べない」と回答した割合が4.7%となっている（大阪市全体3.6%）。

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもと「よく会話をする」との回答が66.1%であり、「週5回以下」では、「よく会話をする」と回答した人は61.9%と、「毎日またはほとんど毎日」の人のほうが「よく会話をする」の割合が高くなっている。

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、18.8点（大阪市18.7点)、「週5回以下」では、17.2点（大阪市17.2点）と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが「週5回以下」の人よりも子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった

心身の自覚症状（子ども）について、困窮度Ⅰ群では、「やる気が起きない」26.7%（中央値以上群に対して約1.2倍、大阪市27.2%)、「よくおなかがいたくなる」24.4%（約1.5倍、大阪市21.9%)、「イライラする」22.1%（大阪市27.6%）など、心理的・精神的症状を示す項目での割合の高さも無視できない。これら心身の症状が学習状況に影響を与えていると推測される。心身の自覚症状（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に困窮度Ⅰ群の数値を多い順に挙げると、「よく肩がこる」49.7%（大阪市47.1%)、「イライラする」42.9%（大阪市42.5%)、「よく腰がいたくなる」37.7%（大阪市36.4%）となっている。

生活を楽しんでいるか、将来への希望、ストレスを発散できるものかあるか、幸福度、を困窮度別に見ると、中央値以上群に対して、それ以外の群では、肯定的な回答の割合が低くなる傾向が見られた。

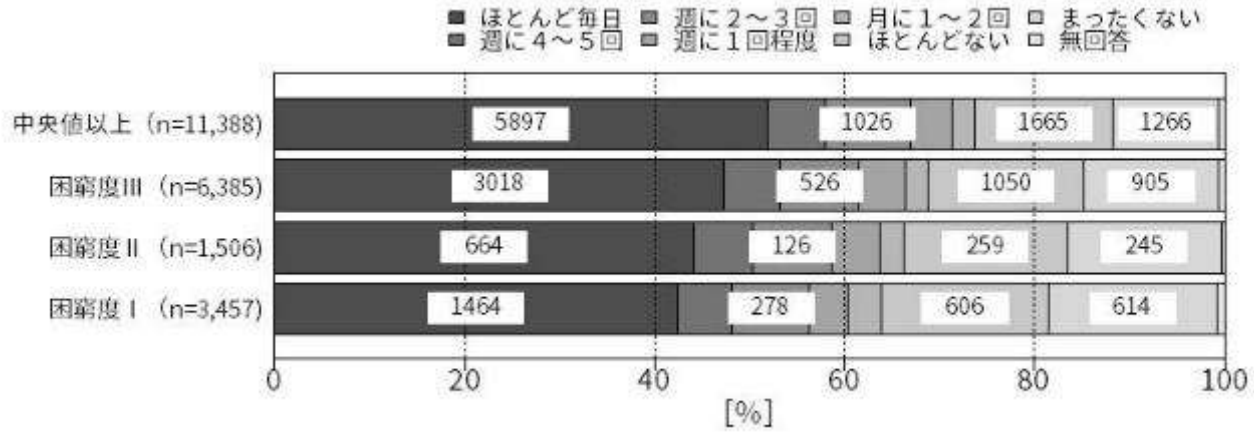
困窮度別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、困窮度による大きな差は見られないものの、中央値以上群では、「よくある」が8.1%であったのに対し、困窮度Ⅰ群では10.9%と困窮度Ⅰ群の割合が高くなった。

困窮度別に保護者の定期的な健康診断の受診を見ると、「受診あり」の回答の割合は中央値以上群が最も高く、困窮度Ⅰ群（38.9%、大阪市39.5%）が最も低くなっている。

３－４．家庭生活・学習

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか） （子ども票　問 10①）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

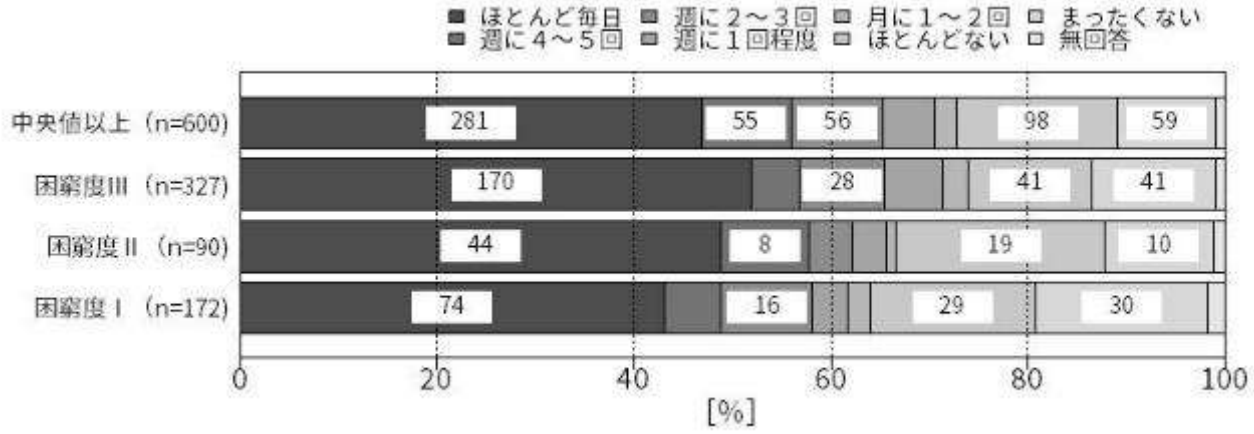
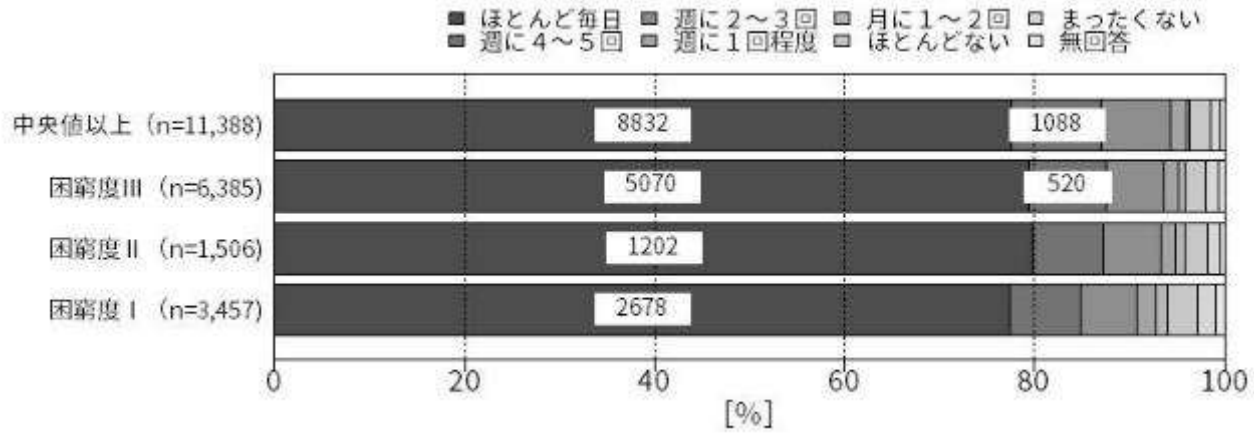


図 206. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくない」と回答した人の割合が高くなる。困窮度Ⅰ群では、「まったくない」が 17.4%、「ほとんどない」が 16.9%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）
（子ども票　問 10②）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

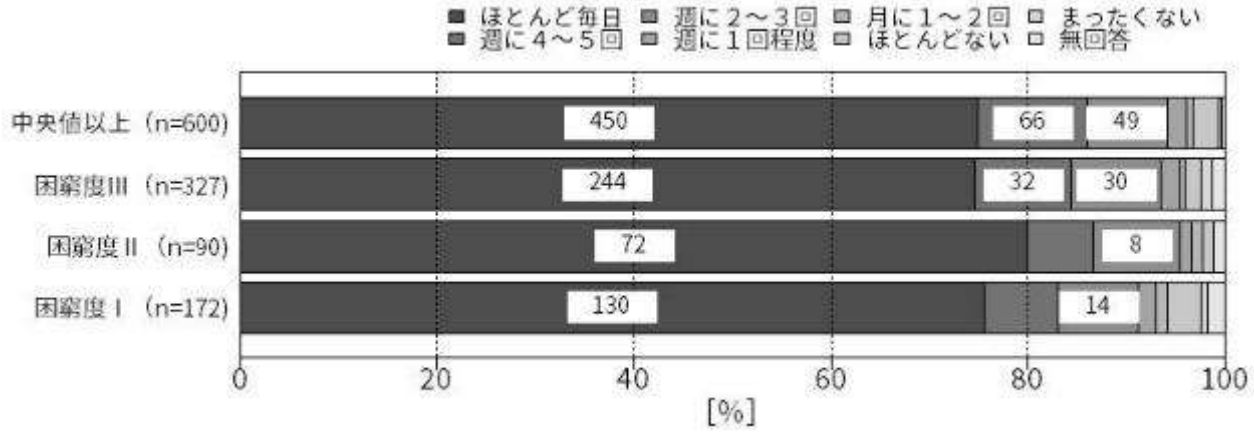
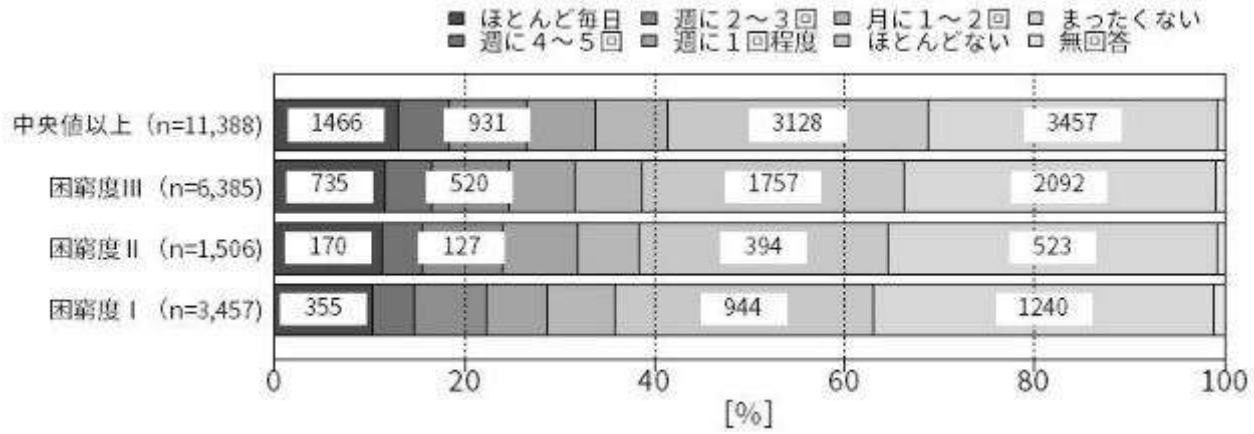


図 207. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）を見ると、困窮度によって大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）
（子ども票　問 10⑤）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

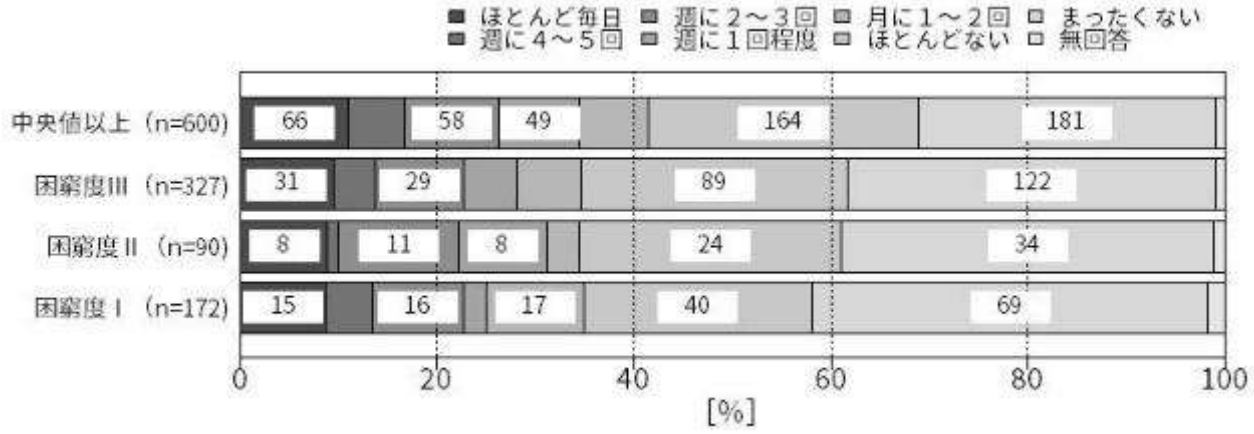
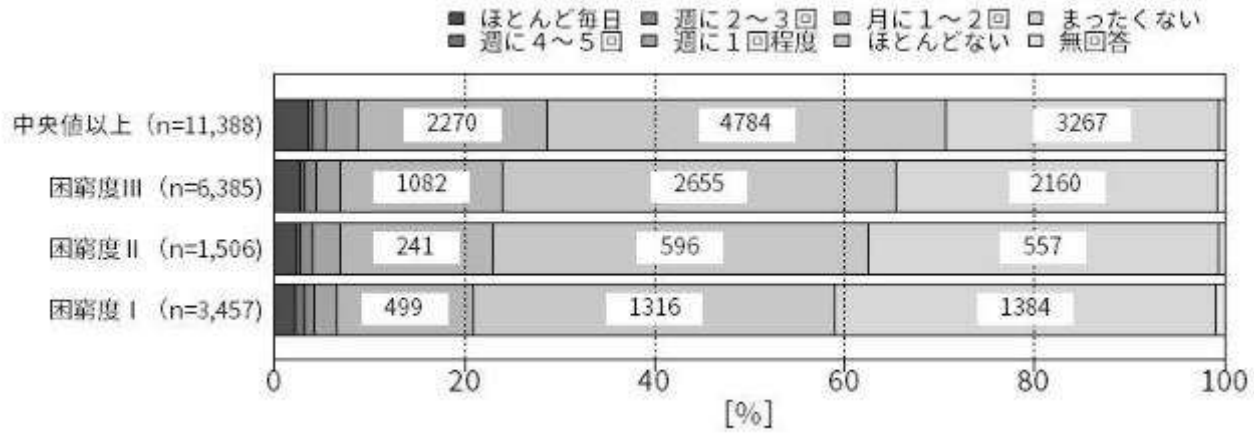


図 208. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくない」と回答した人の割合が高くなる。困窮度 I 群では、「まったくない」が 40.1%、「ほとんどない」が 23.3%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）
（子ども票　問 10⑨）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

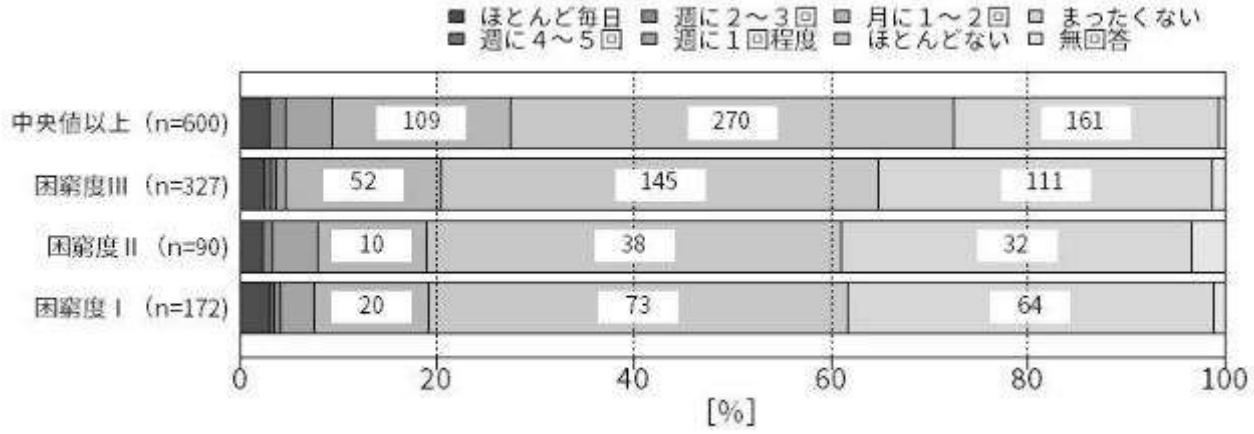
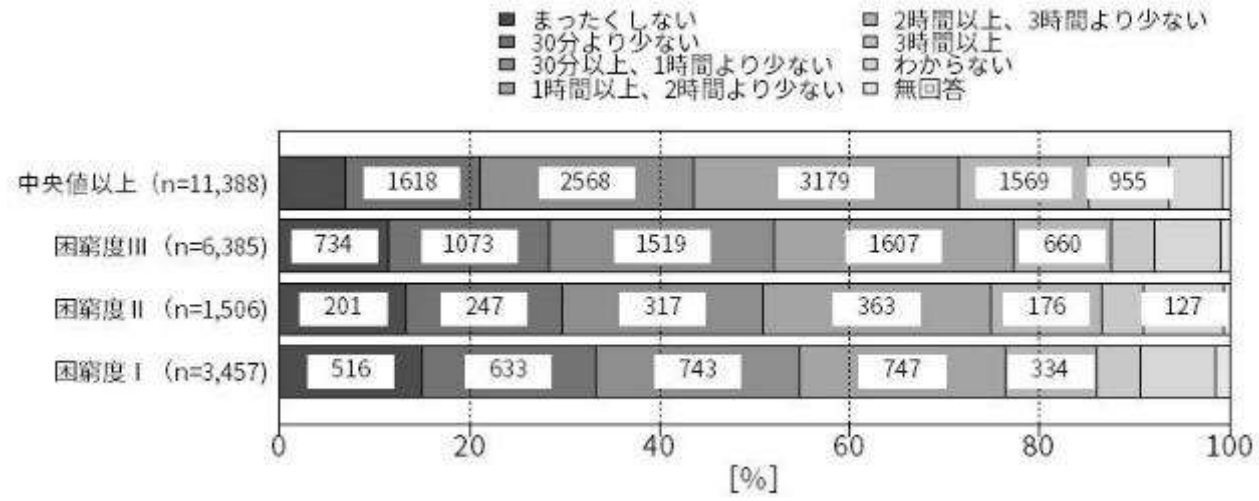


図 209. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「ほとんどない」・「まったくない」と回答した人の割合が高い。困窮度 I 群では、「ほとんどない」と回答した人は 42.4%、「まったくない」と回答した人が 37.2%であった。

困窮度別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票　問 14）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

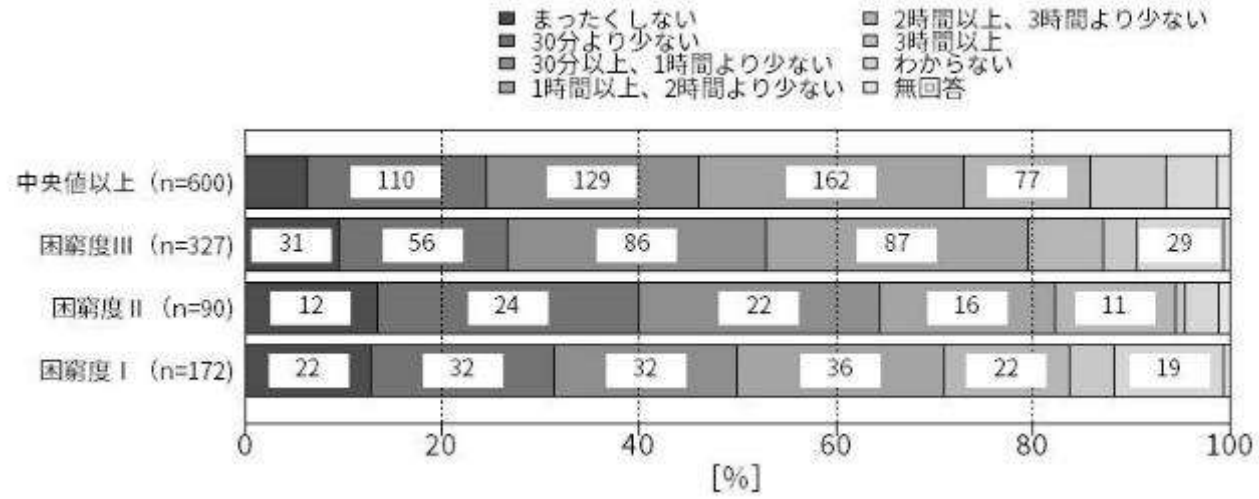
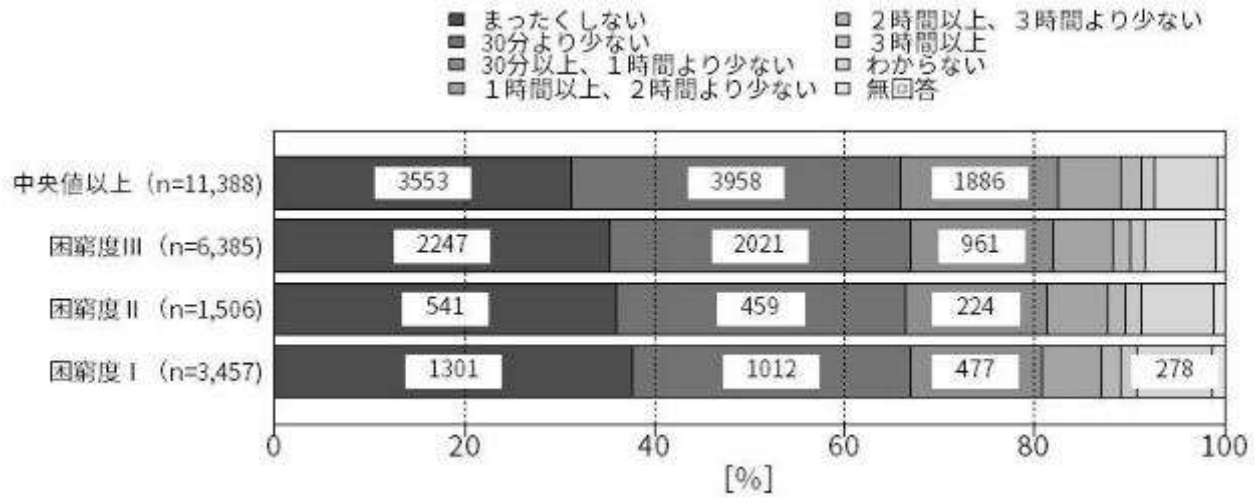


図 210. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間

困窮度別の授業以外の勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」・「30 分より少ない」と回答した人の割合が高くなっている。困窮度 I 群では、「まったくしない」と回答した人は 12.8%であった。また、困窮度が高まるにつれ、1 日あたりの勉強時間が「わからない」と回答した人の割合が高くなっている。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票　問 19）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

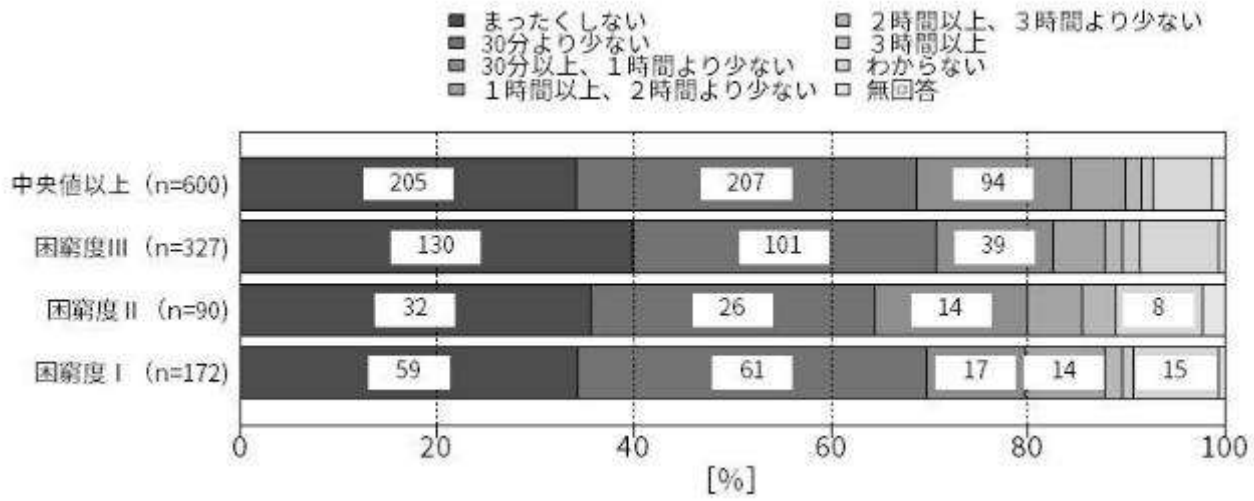
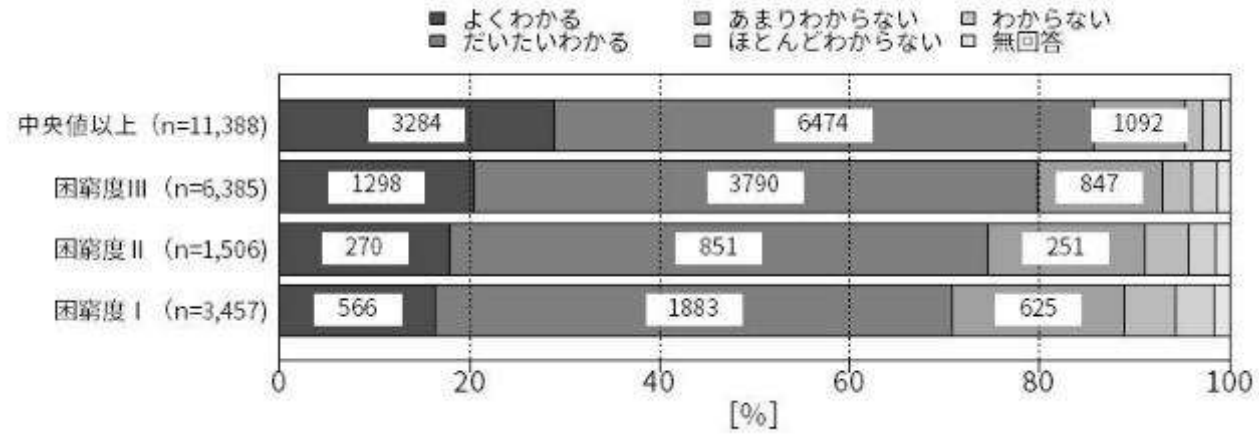


図 211. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別の読書以外の勉強時間を見ると、困窮度によって大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、学習理解度（子ども票　問 18）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

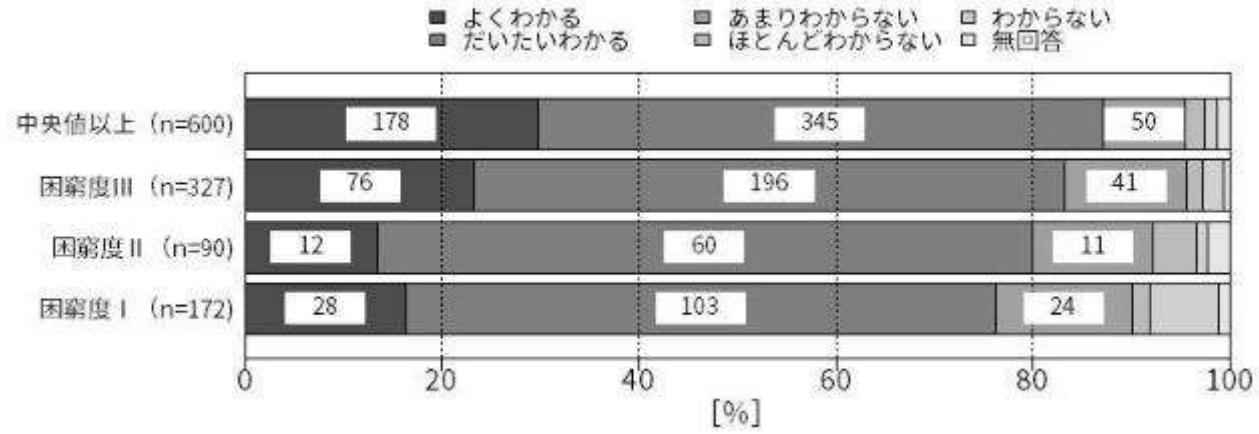
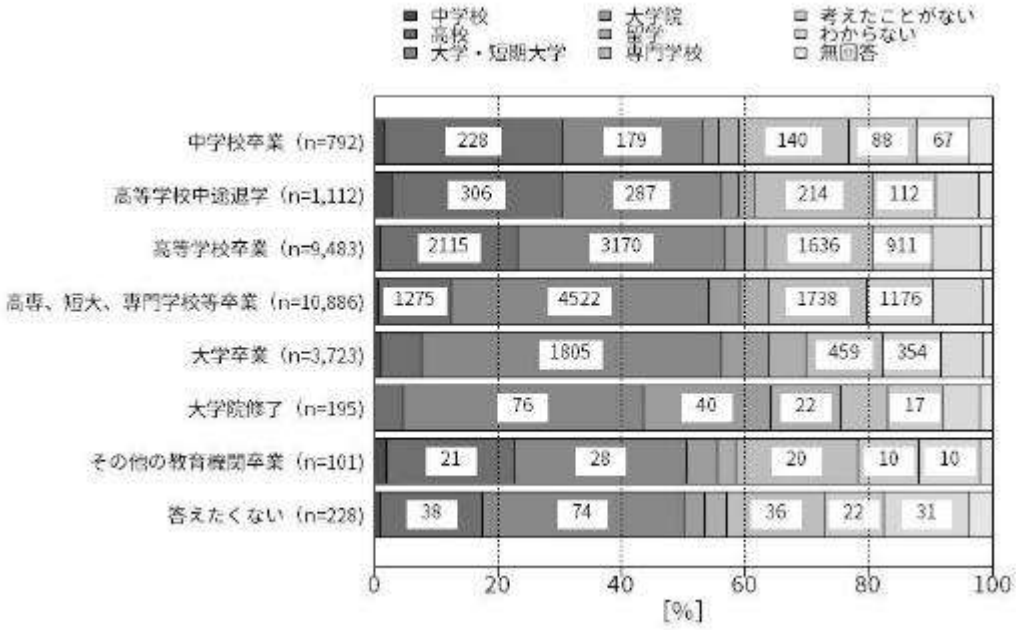


図 212. 困窮度別に見た、学習理解度

困窮度別の学習理解度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「ほとんどわからない」・「わからない」と回答した人の割合が高くなっている。困窮度 I 群では、「ほとんどわからない」・「わからない」と回答した人は 8.7%であった。また、困窮度が高まるにつれて、「よくわかる」の割合も低くなっている。

母親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票　問 8 × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

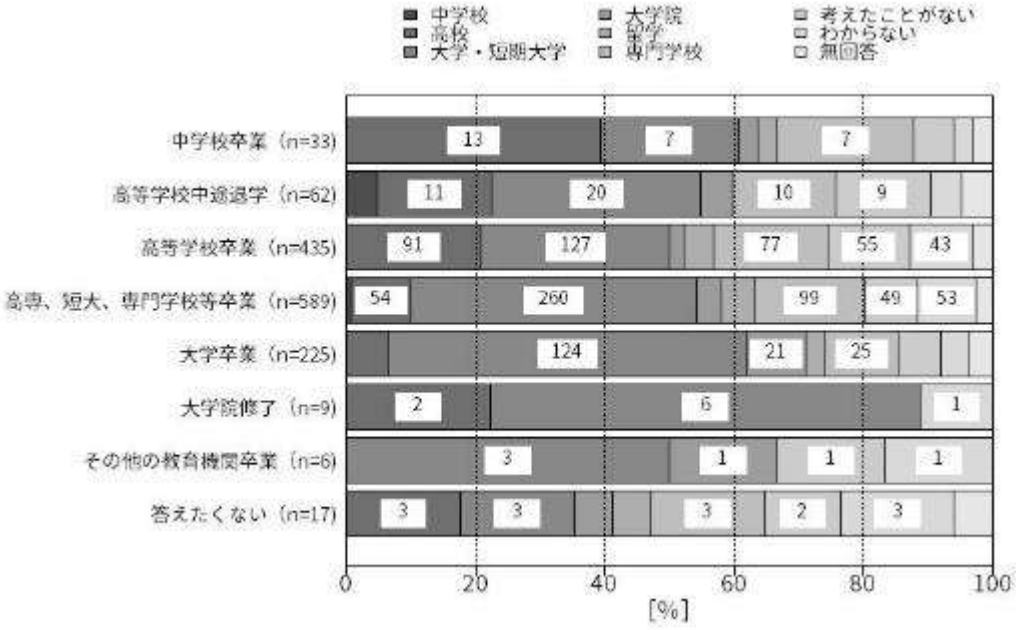
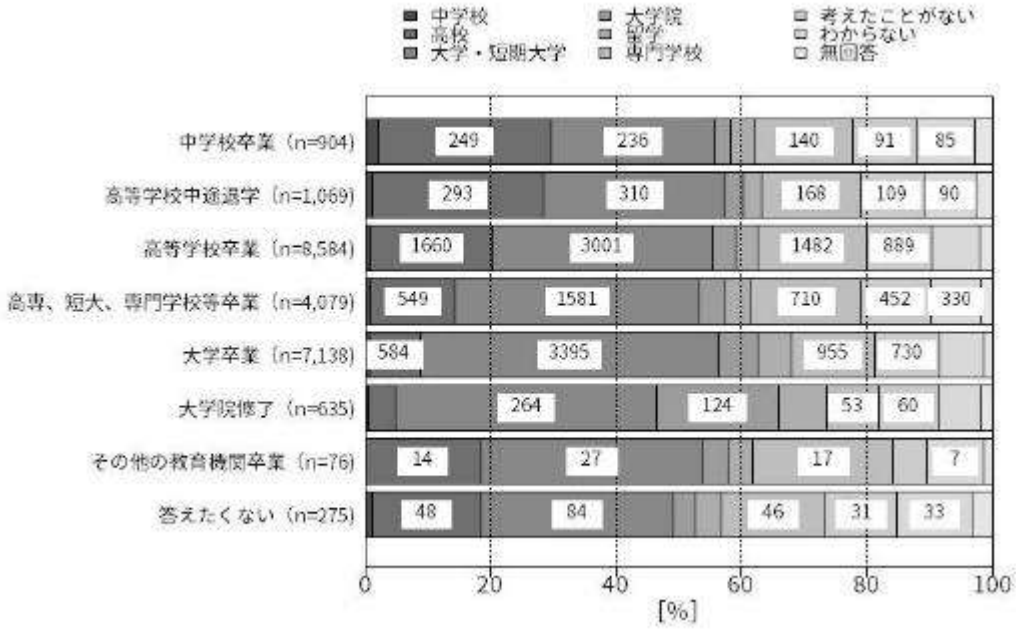


図 213. 母親の最終学歴別に見た、希望する進学先

母親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、母親が中卒または高校中退者では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている。

父親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票　問 8 × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

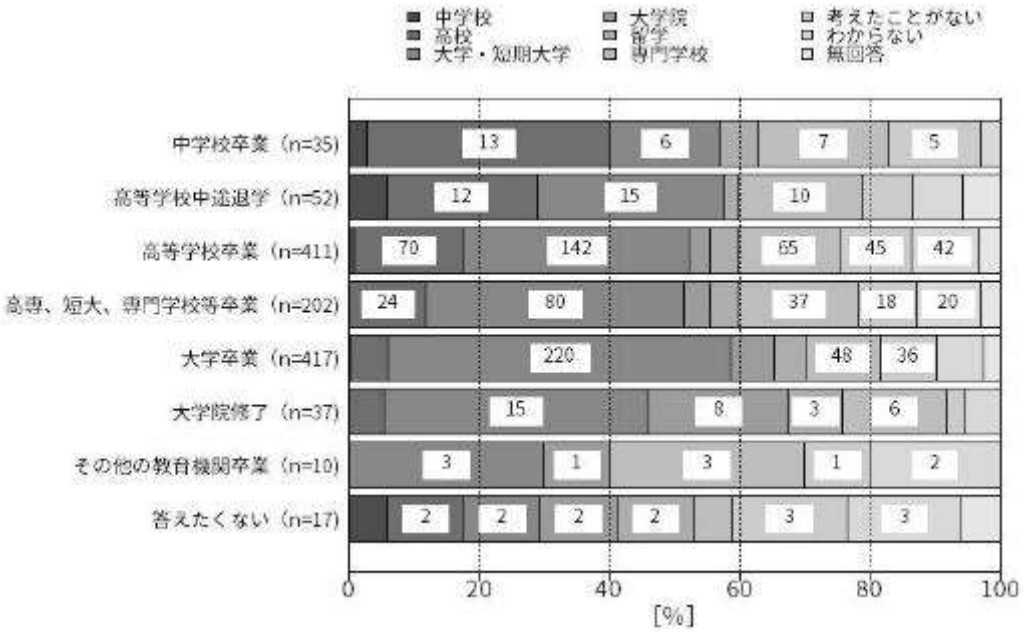
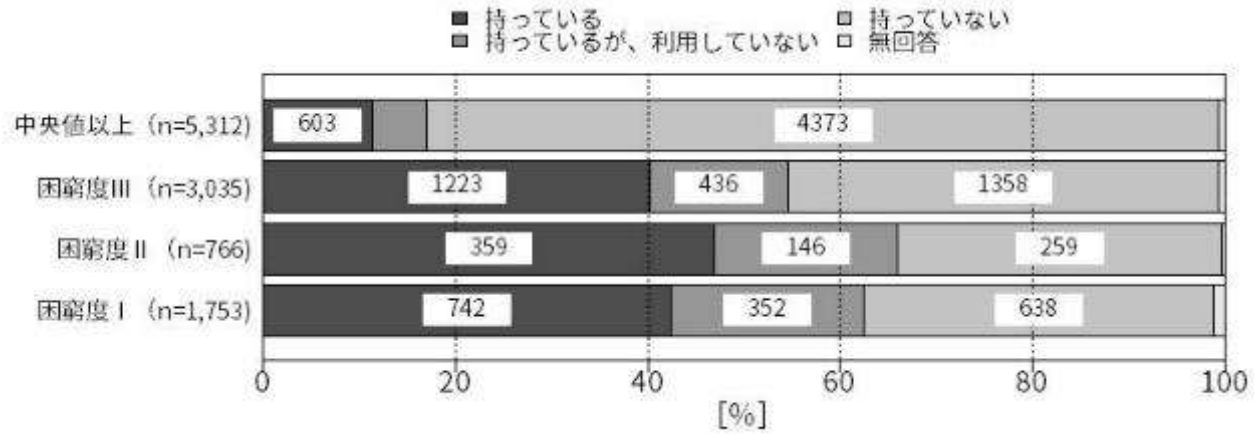


図 214. 父親の最終学歴別に見た、希望する進学先

父親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、父親が中卒または高校中退者では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている。

困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況（保護者票　問 18）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

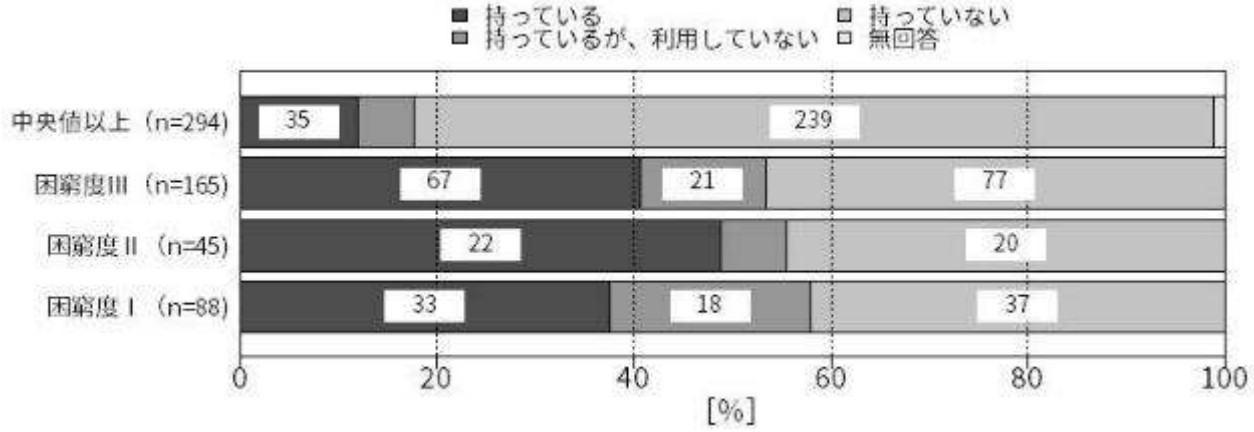
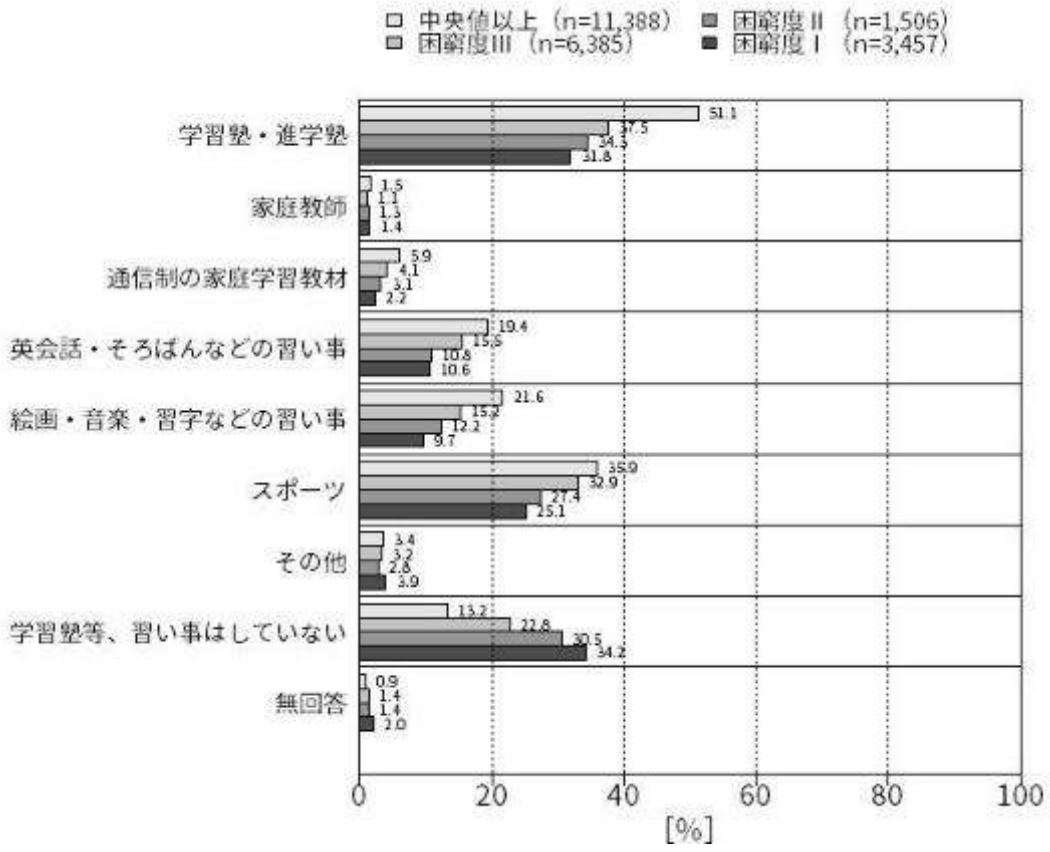


図 215. 困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況

困窮度Ⅰ群では、塾代助成カードを「持っている」が 37.5%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では 48.9%、困窮度Ⅲ群では 40.6%であった。

困窮度別に見た、学習塾等の利用状況（子ども票　問 15）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

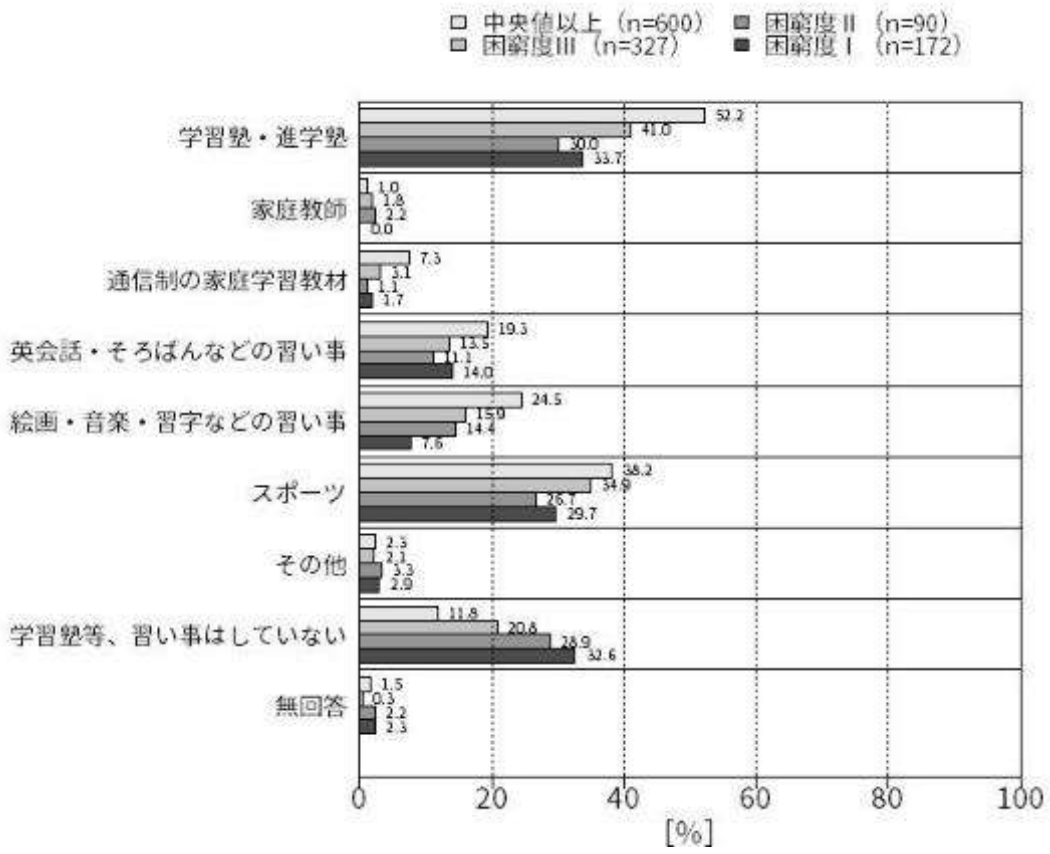
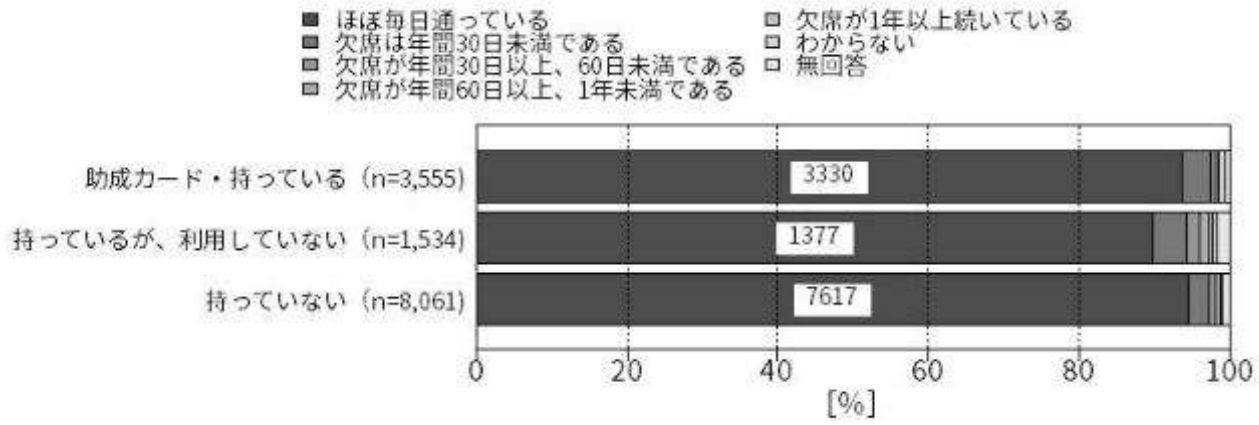


図 216. 困窮度別に見た、学習塾等の利用状況

困窮度Ⅰ群では、「学習塾・進学塾」に通っていると回答した割合が 33.7%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では 30%、困窮度Ⅲ群では 41%であった。困窮度が高まるにつれて、「学習塾・進学塾」「通信制の家庭学習教材」「英会話・そろばんなどの習い事」「絵画・音楽・習字などの習い事」「スポーツ」と多くの項目について、割合が低くなっている。

塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況（保護者票　問 18 × 保護者票　問 21）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

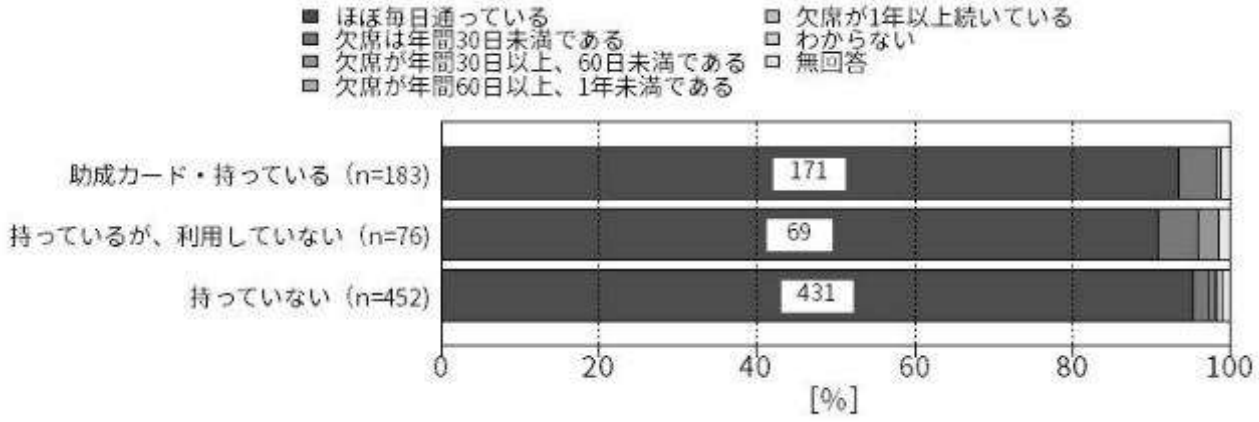
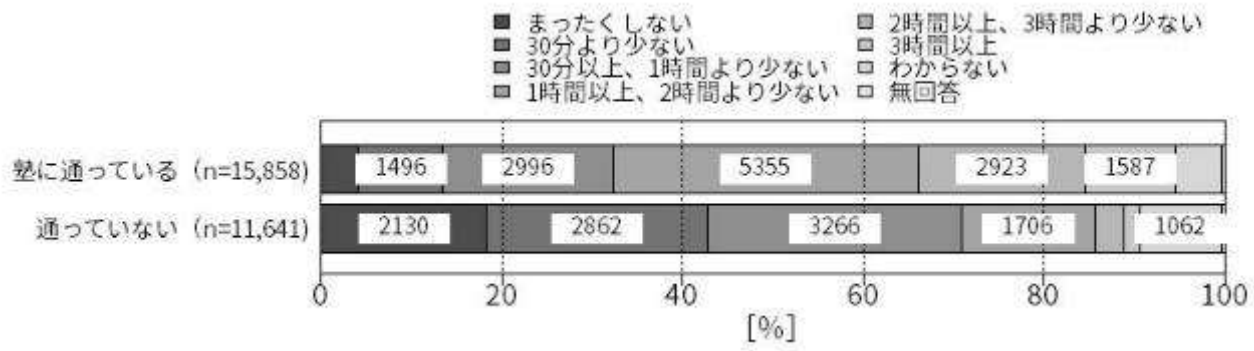


図 217. 塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況

塾助成カードを持っていない人は、子どもが学校に「ほぼ毎日通っている」と回答した割合が 95.4%であったのに対し、持っているが利用していない人が 90.8%、持っている人が 93.4%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票　問 15 × 子ども票　問 14）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

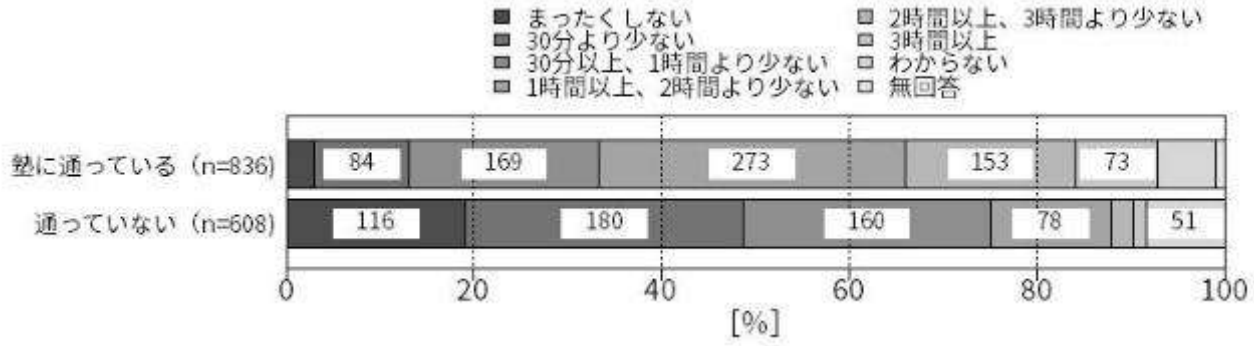
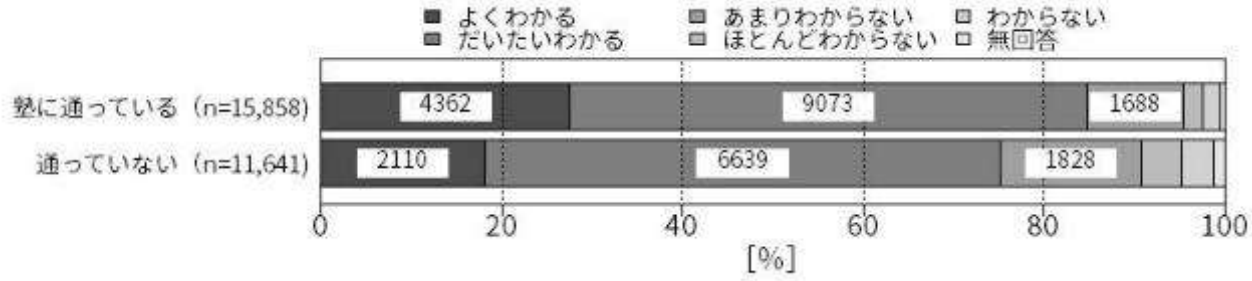


図 218. 学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間

勉強を中心とした塾に通っていない人は、授業時間以外に勉強を「まったくしない」が 19.1%であったのに対し、塾に通っている人は 3%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度（子ども票　問 15 × 子ども票　問 18）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

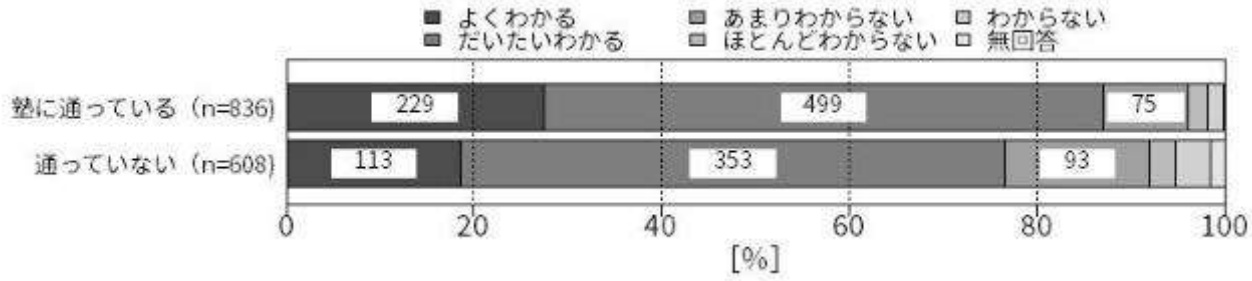
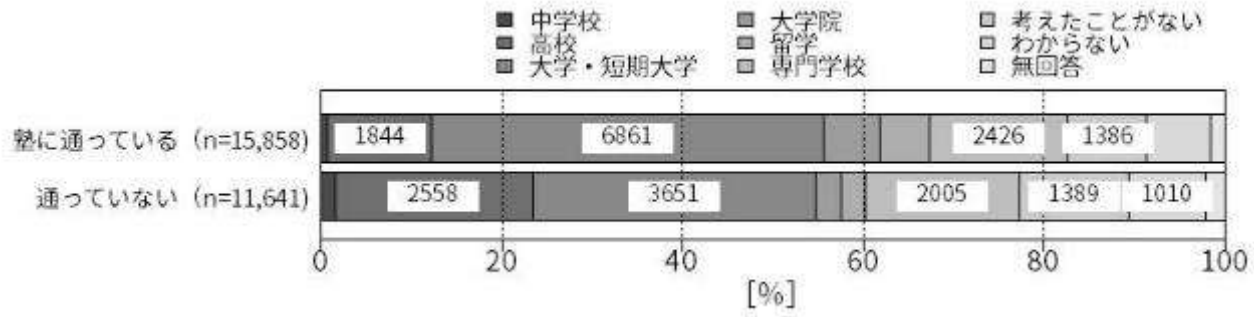


図 219. 学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度

勉強を中心とした塾に通っていない人は、学校の勉強が「よくわかる」と答えた割合が 18.6%であったのに対し、塾に通っている人は 27.4%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先（子ども票　問 15 × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

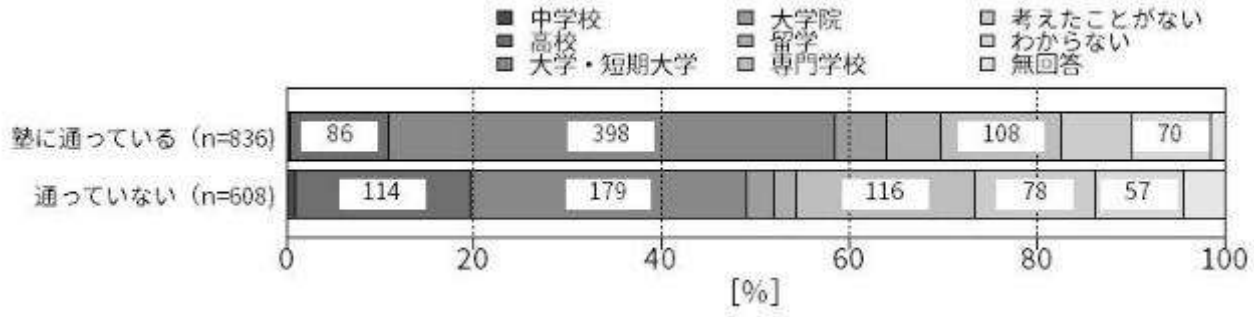
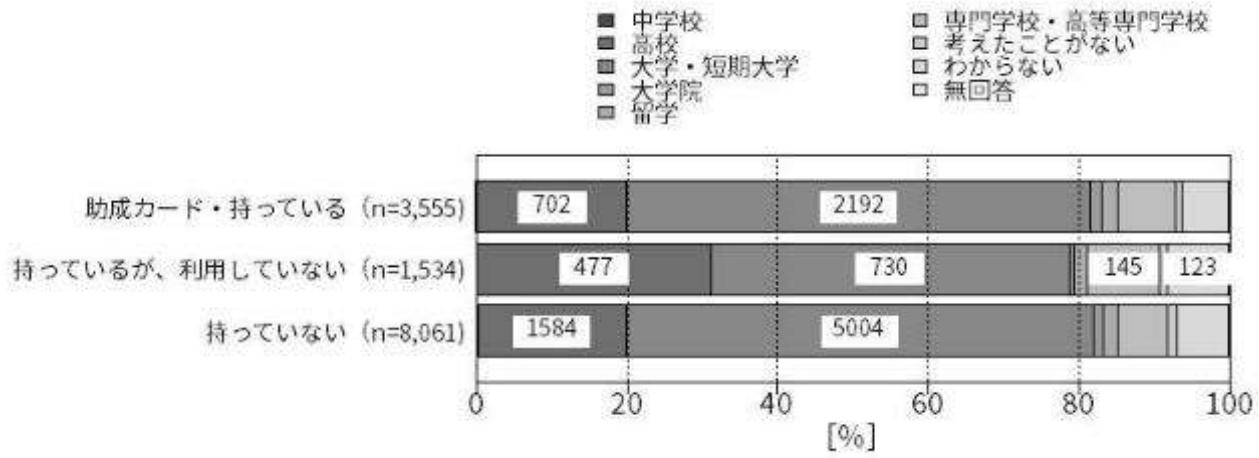


図 220. 学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先

勉強を中心とした塾に通っていない人は、「大学・短期大学」まで行きたいと答えた割合が 29.4%であったのに対し、塾に通っている人は 47.6%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先
（保護者票　問 18 × 保護者票　問 15）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

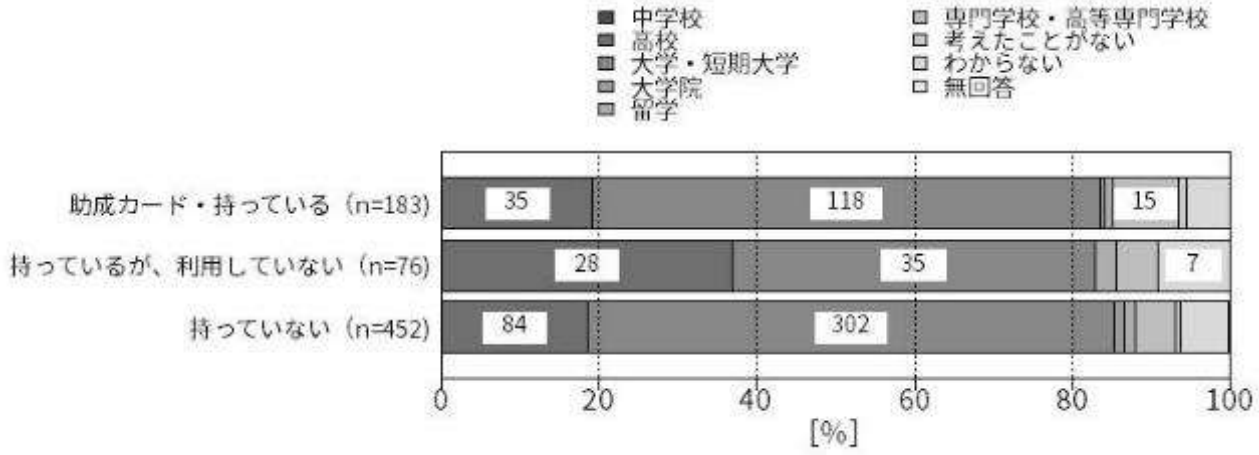
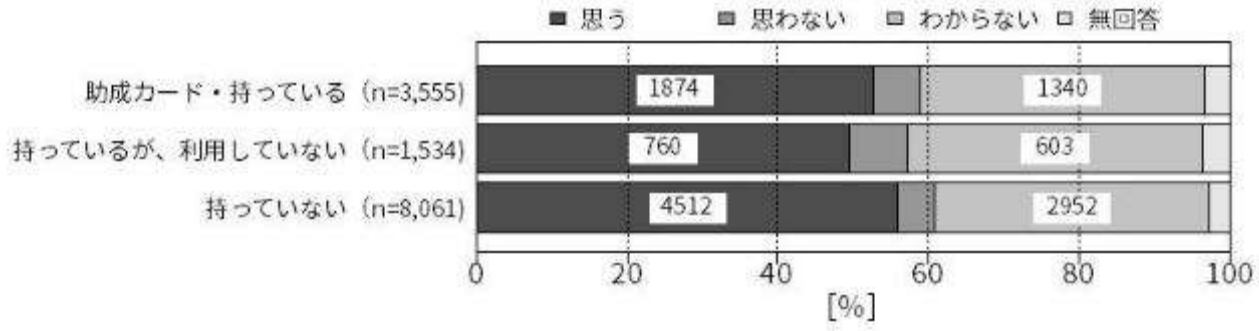


図 221. 塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先

塾助成カードを持っていない人は、子どもの進学先について「大学・短期大学」まで希望すると回答した割合が 66.8%であったのに対し、持っているが利用していない人が 46.1%、持っている人が 64.5%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測
（保護者票　問 18 × 保護者票　問 16）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

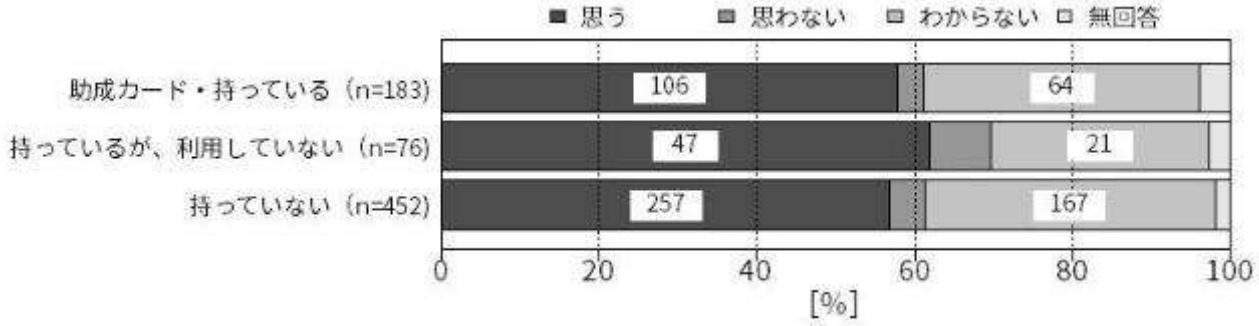
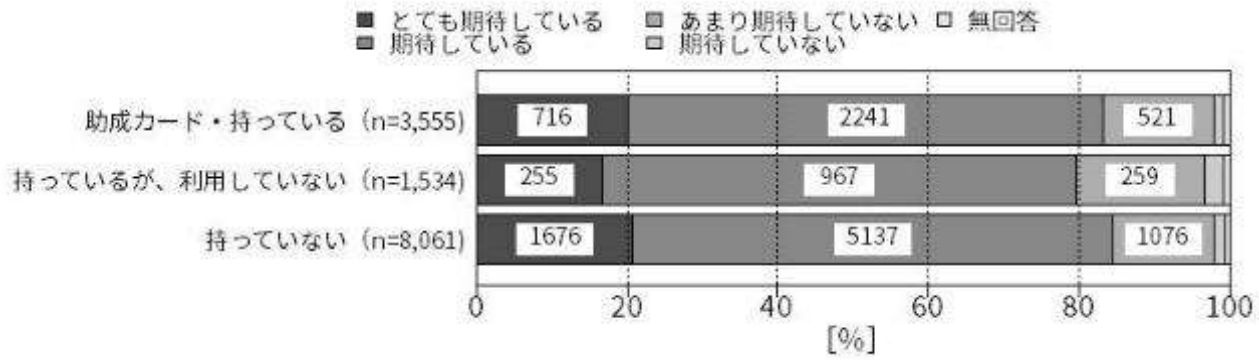


図 222. 塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測

塾助成カードを持っていない人は、子どもが希望どおりの学校まで進むと思うと回答した割合が 56.9%であったのに対し、持っているが利用していない人が 61.8%、持っている人が 57.9%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
（保護者票　問 18 × 保護者票　問 14(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

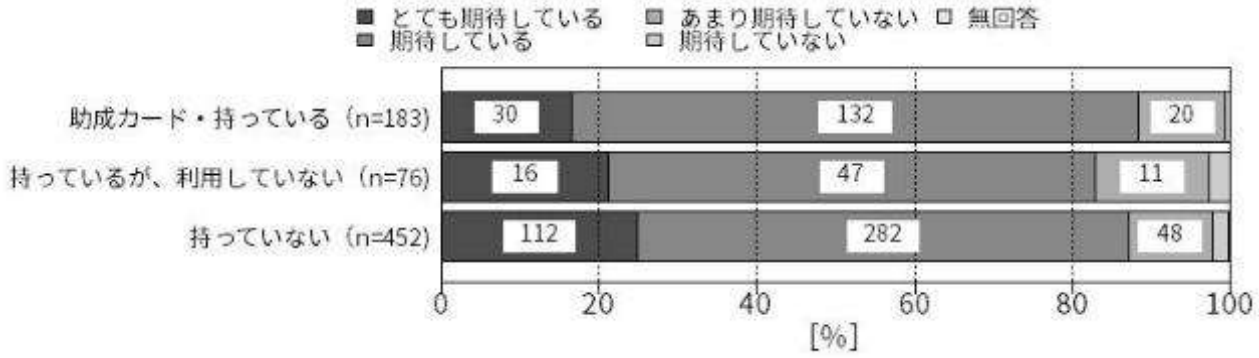


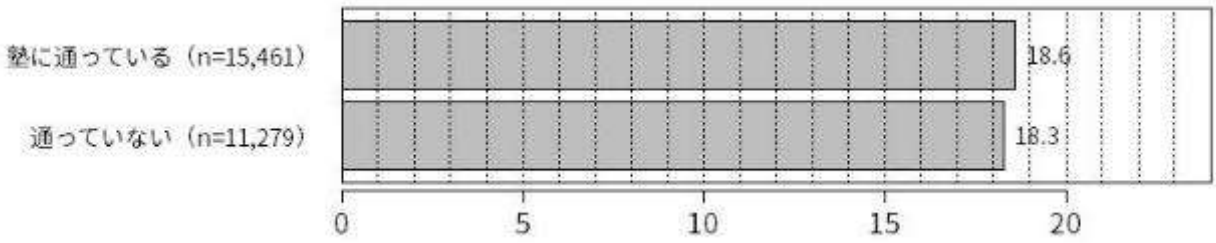
図 223. 塾代助成カードの所持状況別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

塾助成カードを持っていない人は、子どもの将来を「とても期待している」と回答した割合が 24.8%であったのに対し、持っているが利用していない人が 21.1%、持っている人が 16.4%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー
（子ども票　問 15 × 子ども票　問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

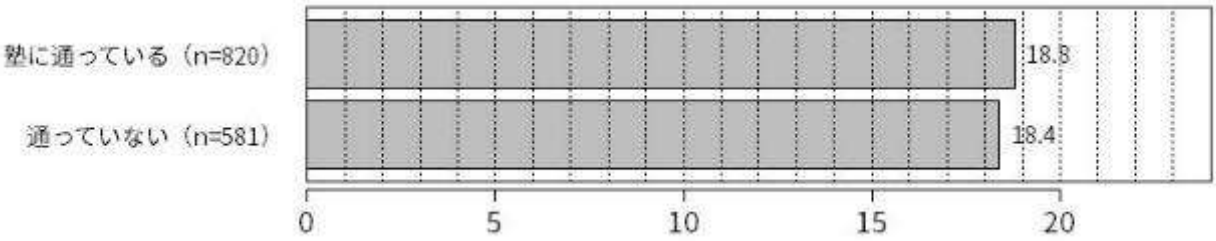
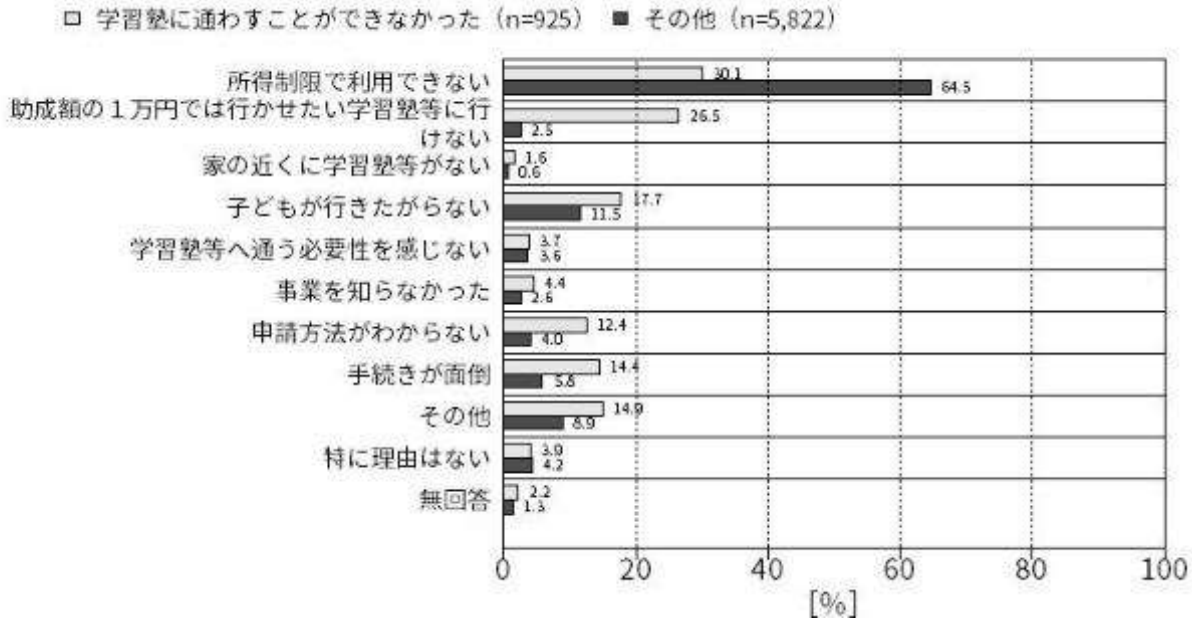


図 224. 学習塾等の利用状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

勉強を中心とした塾に通っていない人は、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均点が 18.4 点であるのに対し、塾に通っている人は 18.8 点であり、大きな差は見られなかった。

経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、塾代助成カードを持っていない理由
（保護者票　問 13 の 9 × 保護者票　問 20）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

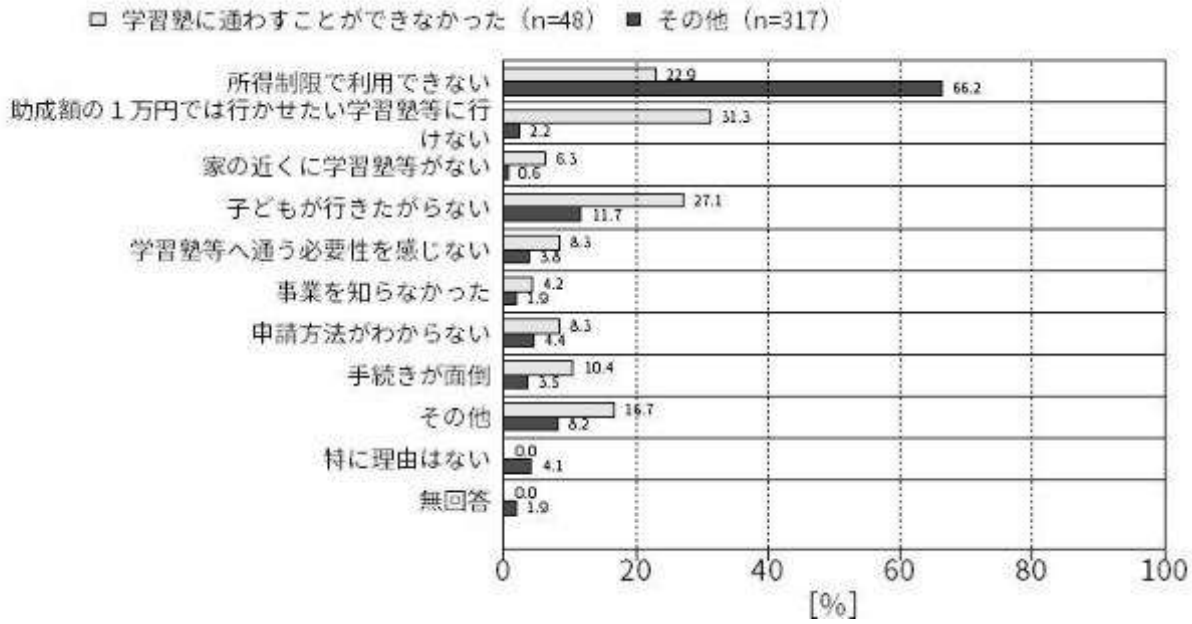
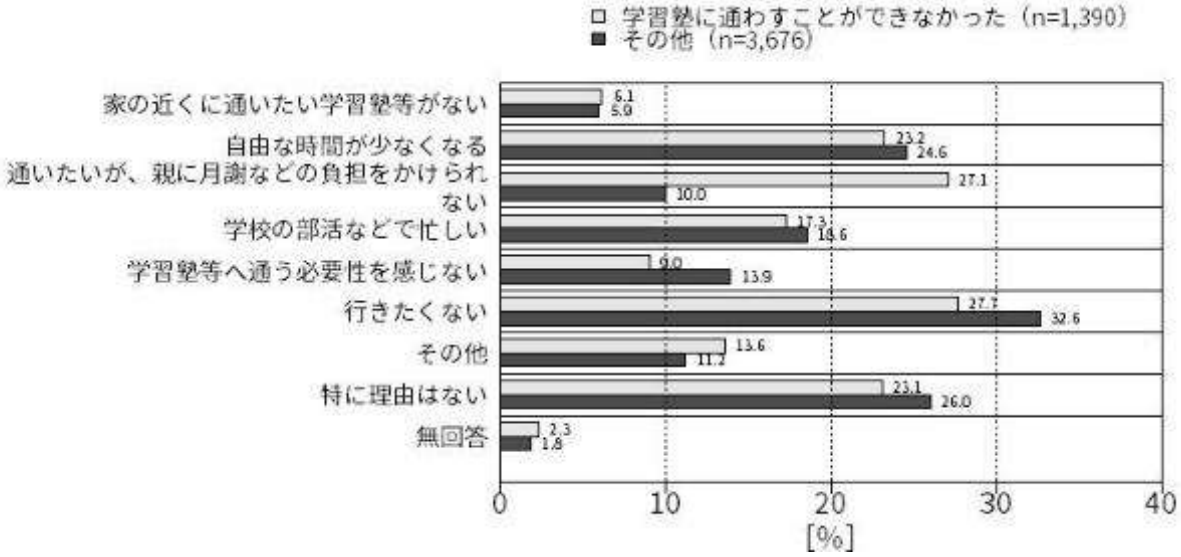


図 225. 経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、塾代助成カードを持っていない理由

塾へ通わせられなかった人は、「助成額の１万円では行かせたい学習塾等に行けない」という理由で塾代助成カードを持っていない人が 31.3%ともっとも多かった。また、「事業を知らなかった」「申請方法がわからない」「手続きが面倒」という回答も見られた。

経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、学習塾等に通っていない理由（保護者票　問 13 の 9 × 子ども票　問 17）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

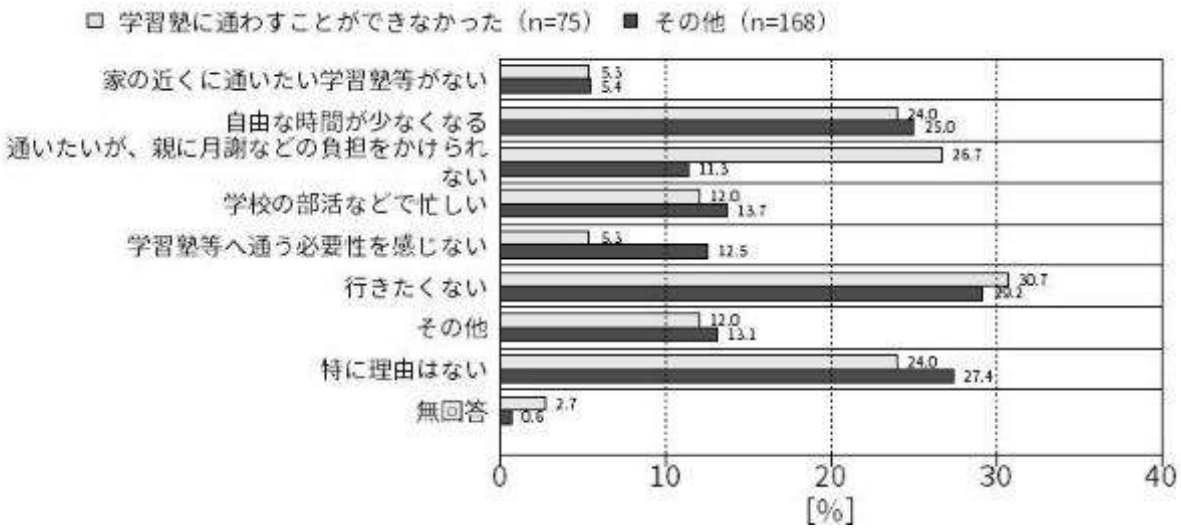


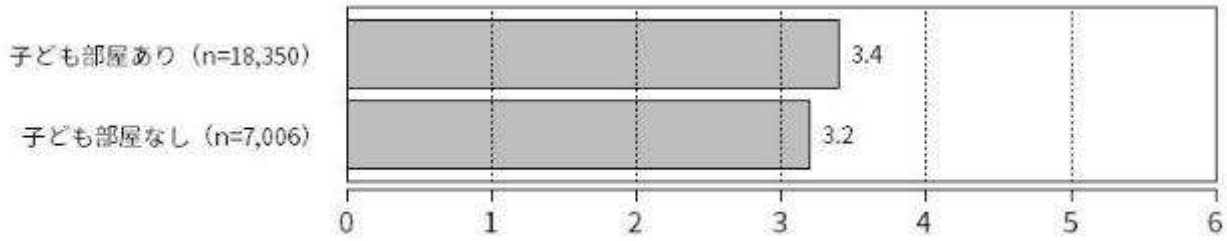
図 226. 経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、学習塾等に通っていない理由

塾へ通わせられなかった人は、「行きたくない」という理由が 30.7%ともっとも多かった。その他群との差で見ると、「通いたいが、親に月謝などの負担をかけられない」で多くなっている。

子ども部屋の有無別に見た、勉強時間の平均値（子ども票　問 25 の 3 × 子ども票　問 14）

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30 分より少ない」「3. 30 分以上、1 時間より少ない」「4. 1 時間以上、2 時間より少ない」「5. 2 時間以上、3 時間より少ない」「6. 3 時間以上」の 6 つの時間枠からひとつを選択させた（「7. わからない」は除く）。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

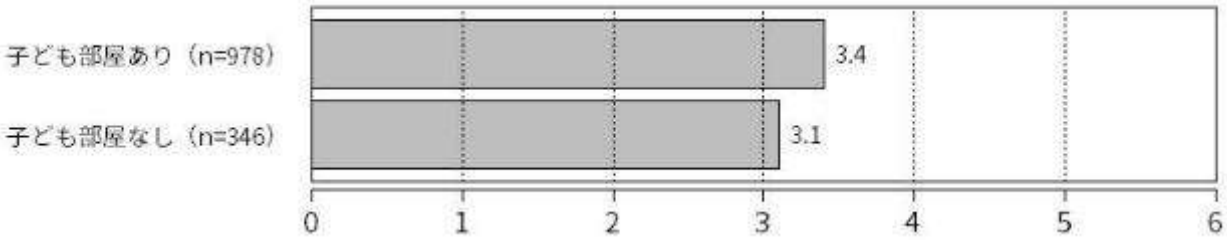
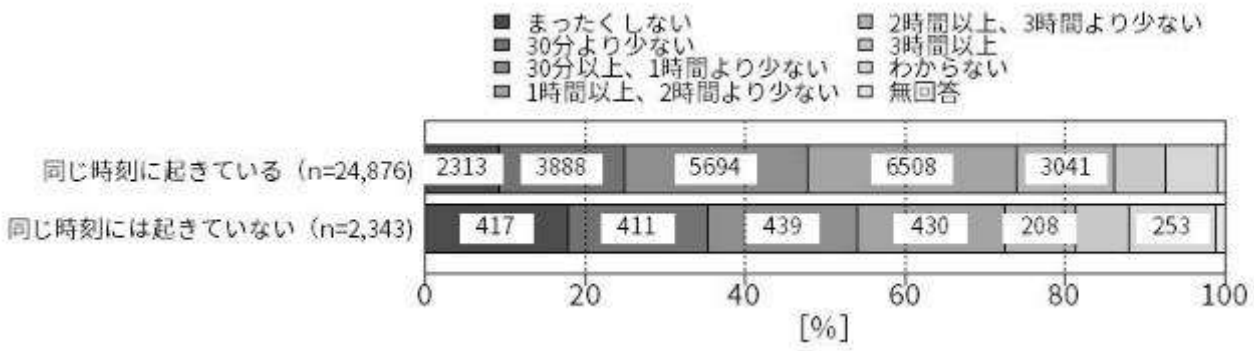


図 227. 子ども部屋の有無別に見た、勉強時間の平均値

子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い傾向にあった。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票　問 2 × 子ども票　問 14）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

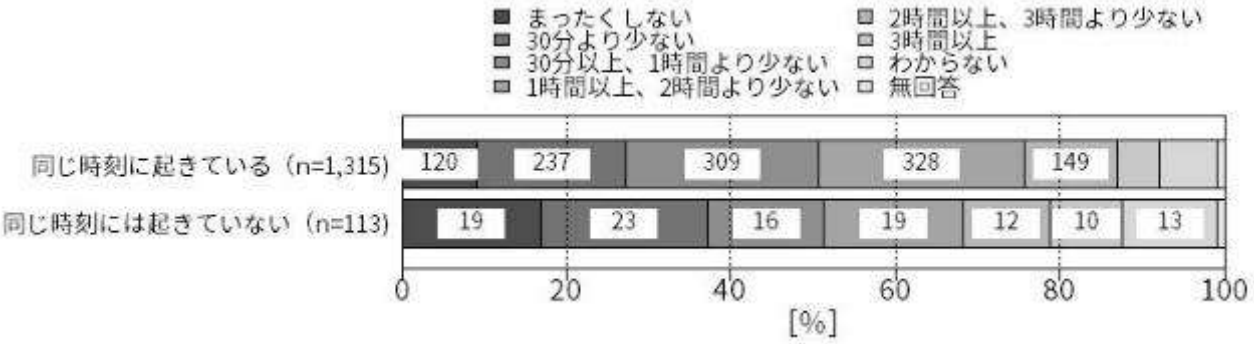


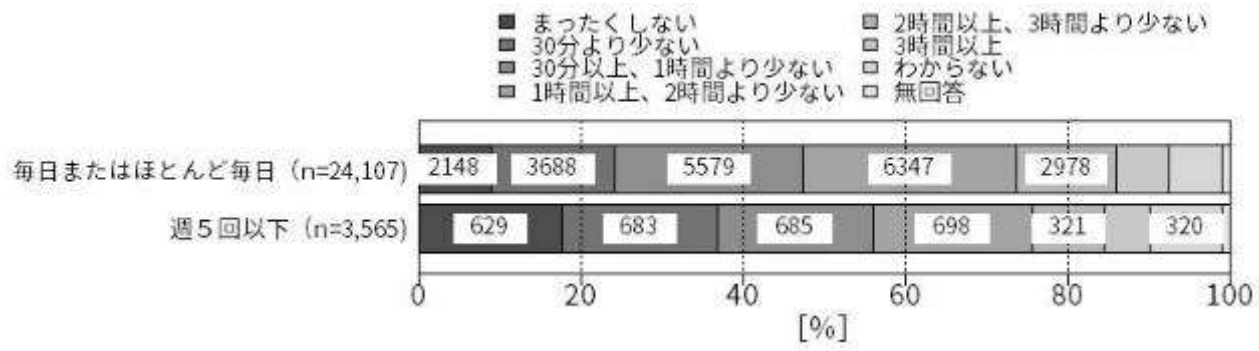
図 228. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の勉強時間

ここでは、子ども票問２において「起きている」「どちらかと言えば、起きている」と回答した子どもを「同じ時刻に起きている」、「あまり、起きていない」「起きていない」と回答した子どもを「同じ時刻には起きていない」としている。

起床時間の規則性別に授業以外の勉強時間を見ると、「同じ時刻に起きている」子どもの方が、「30分以上、１時間より少ない」、「１時間以上、２時間より少ない」、「２時間以上、３時間より少ない」と回答した人の割合が高い。「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は 16.8%となっている。

朝食の頻度別に見た 、授業以外の勉強時間（子ども票　問 5(1) × 子ども票　問 14）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

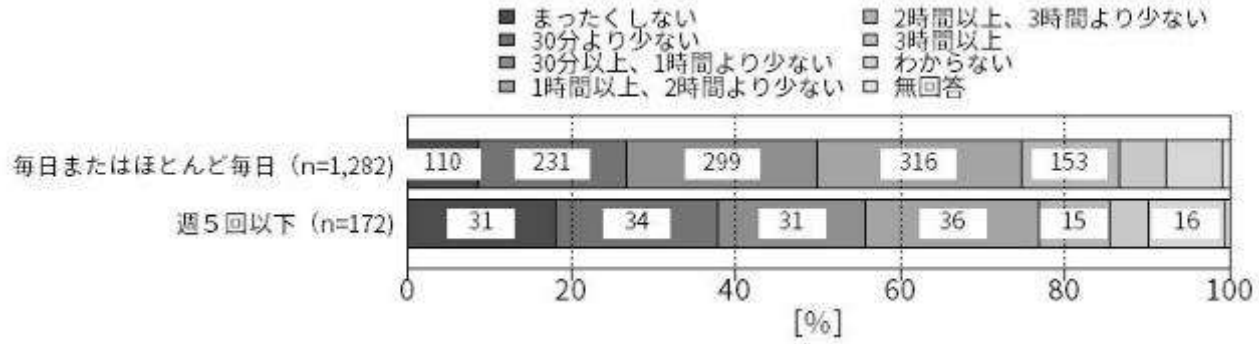


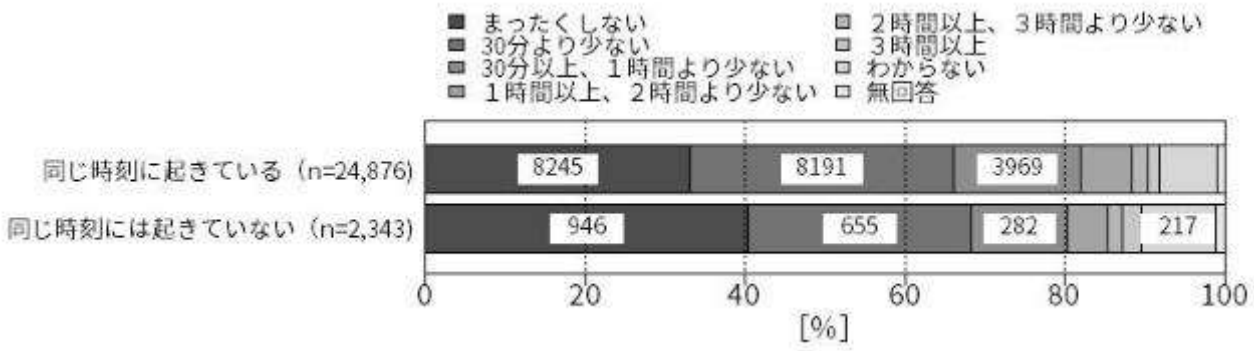
図 229. 朝食の頻度別に見た、授業以外の勉強時間

ここでは、子ども票問５において「毎日またはほとんど毎日」と回答した子どもを「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週５回以下」としている。

朝食の頻度別に授業以外の勉強時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「まったくしない」と回答したのは 18%であり「週５回以下」の子どもよりも少ない。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30 分以上、１時間より少ない」「１時間以上、２時間より少ない」「２時間以上、３時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ 23.3%、24.6%、11.9%であり、「週５回以下」朝食をとる子どもよりも割合が高い。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票　問 2 × 子ども票　問 19）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

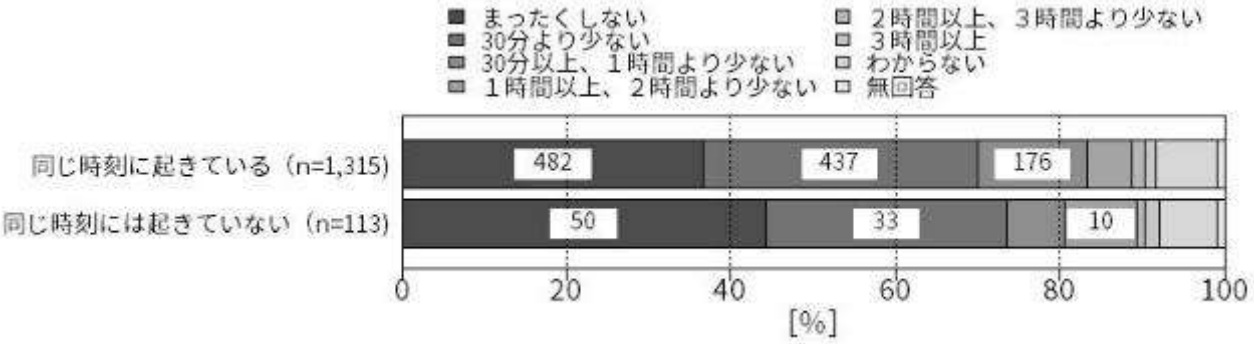
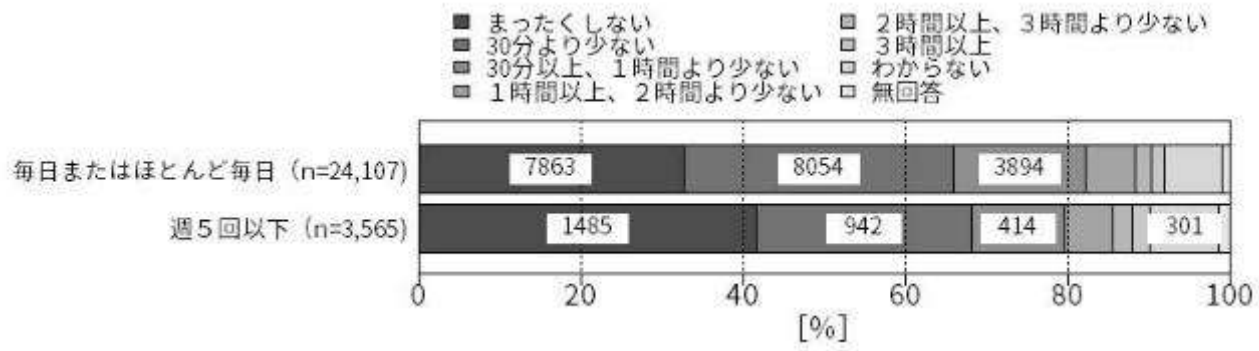


図 230. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、「同じ時刻に起きている」子どもの方が、「30 分以上、１時間より少ない」、「１時間以上、２時間より少ない」と回答した人の割合が高い。「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は 44.2%と割合が高い。

朝食の頻度別に見た 、授業以外の読書時間（子ども票　問 5(1) × 子ども票　問 19）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

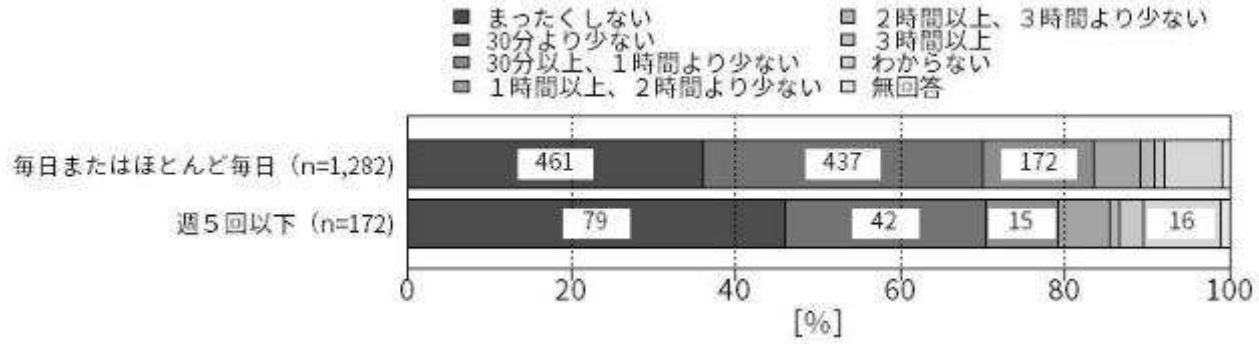


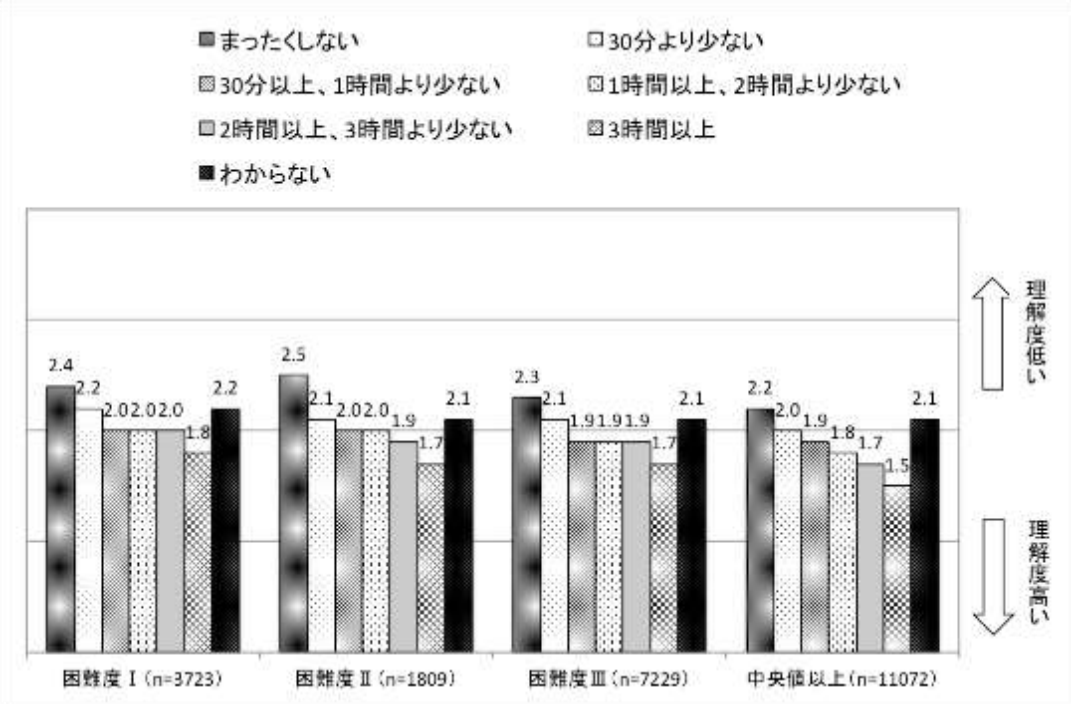
図 231. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「まったくしない」と回答したのは 34.1%であり「週５回以下」の子どもよりも少ない。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30 分以上、１時間より少ない」「１時間以上、２時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ 13.4%、5.6%であり、「週５回以下」朝食をとる子どもよりも割合が高い。

困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連（子ども票　問 18）

※学習理解度について、「1. よくわかる」～「4. ほとんどわからない」まで 4 項目で評定させた。数値が低いほど、学習理解度が高いことを表す。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

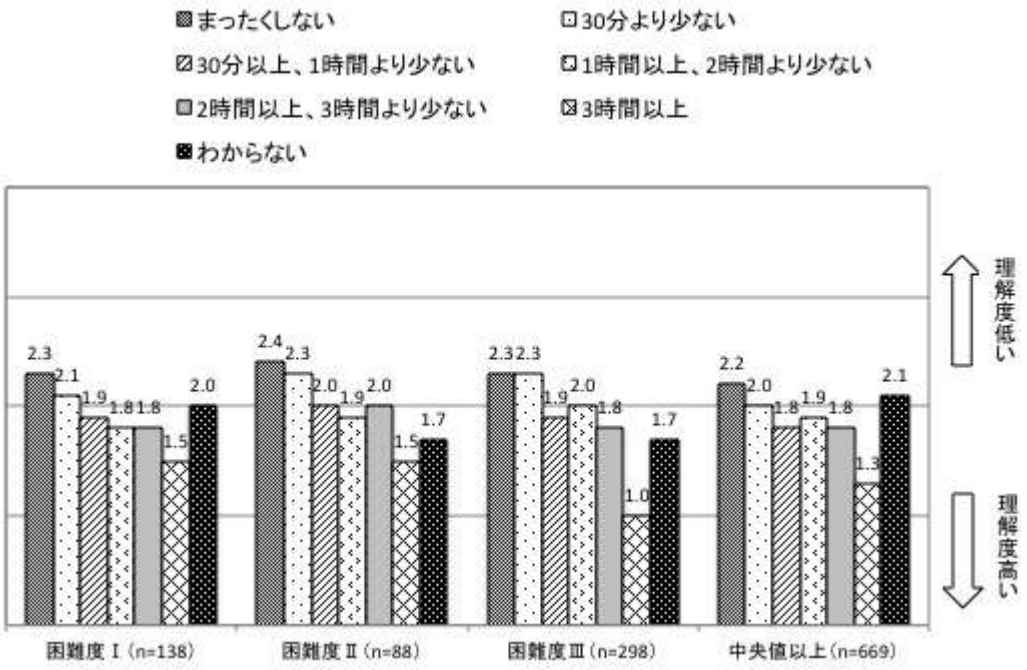
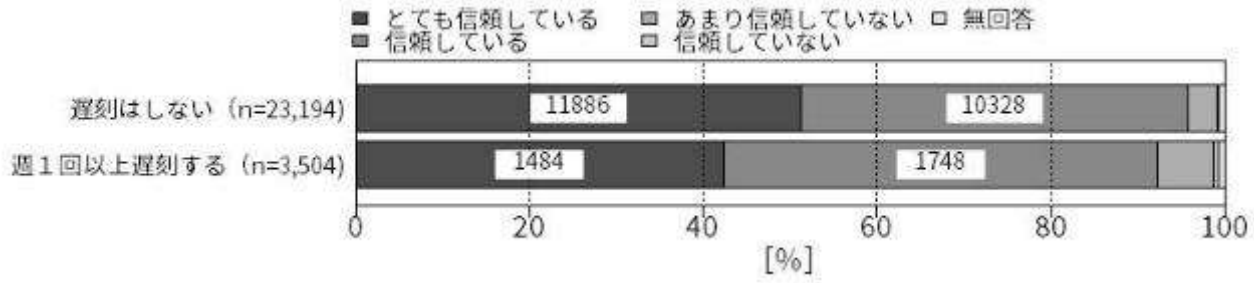


図 232. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連

どの困窮度においても、勉強の理解度が低いほど勉強時間が短かった。

学校への遅刻別に見た 、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）
（子ども票　問 9 × 保護者票　問 14(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

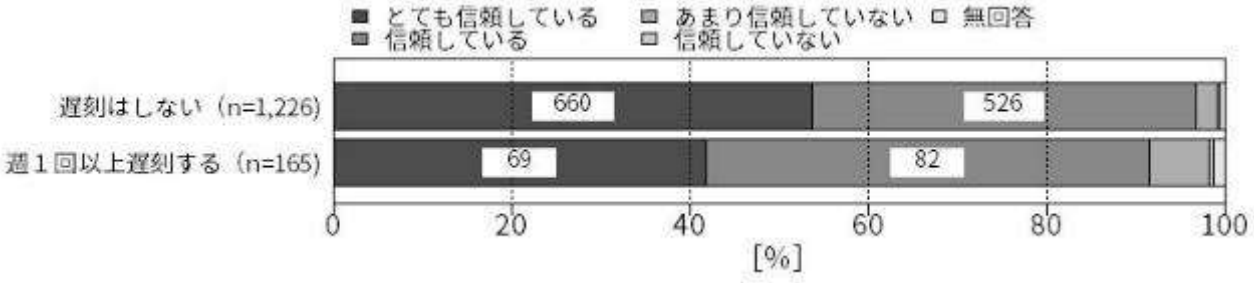


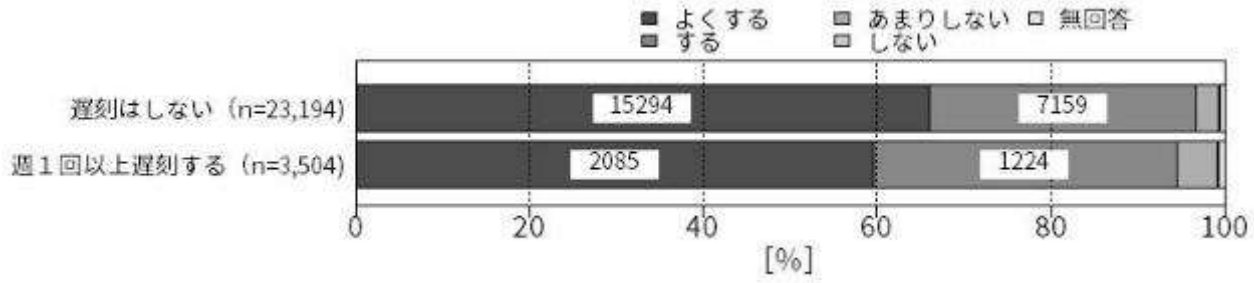
図 233. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

ここでは、子ども票問９において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週１回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は「とても信頼している」割合が高く、53.8%であった。「週１回以上遅刻する」子どもにおいては、保護者は「あまり信頼していない」割合が高く、6.7%であった。

学校への遅刻別に見た 、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）
（子ども票　問 9 × 保護者票　問 14(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

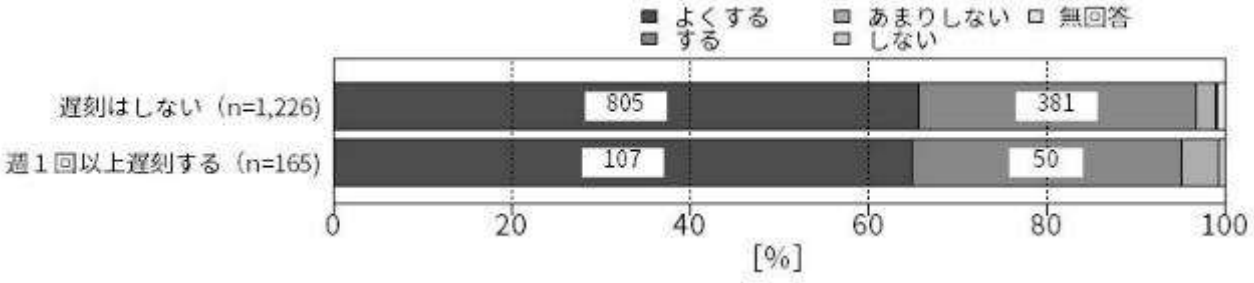


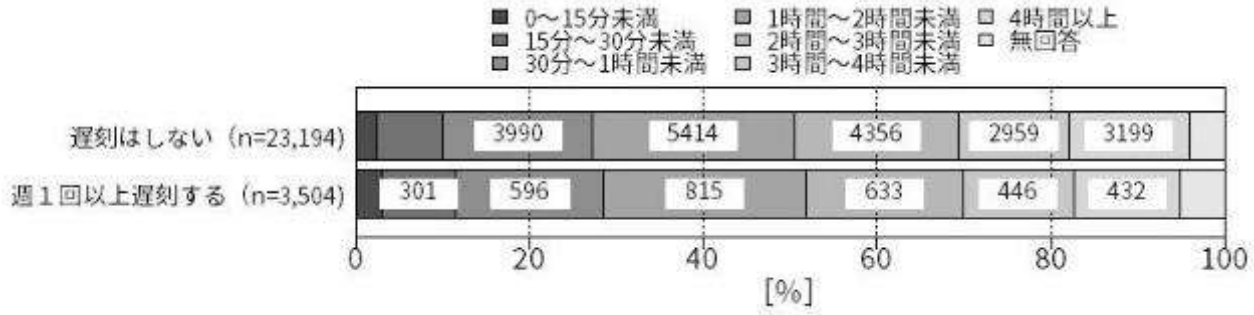
図 234. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

ここでは、子ども票問９において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週１回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、大きな差は見られなかった。

学校への遅刻別に見た 、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
（子ども票　問 9 × 保護者票　問 14(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

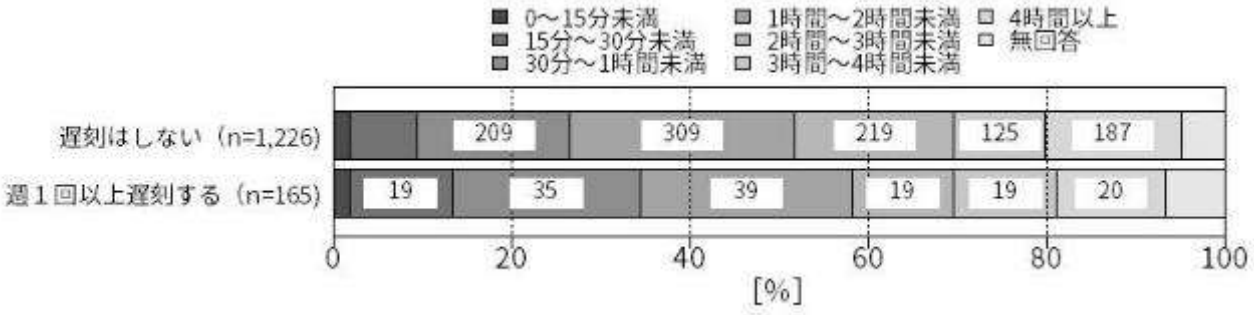
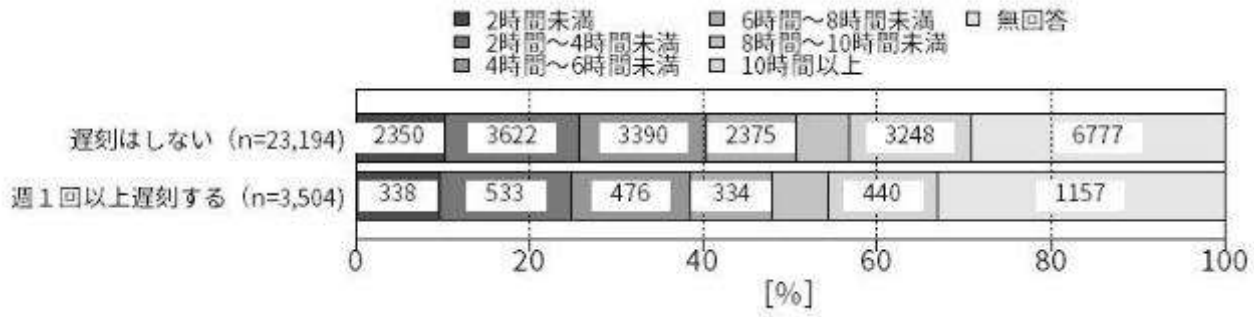


図 235. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（平日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者との関わりは「1 時間～2 時間未満」「2 時間～3 時間未満」「4 時間以上」の割合が高く、それぞれ 25.2%、17.9%、15.3%であった。「週 1 回以上遅刻する」子どもにおいては、「30 分～1 時間未満」「15 分～30 分未満」の割合が高く、それぞれ 21.2%、11.5%であった。

学校への遅刻別に見た 、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
（子ども票　問 9 × 保護者票　問 14(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

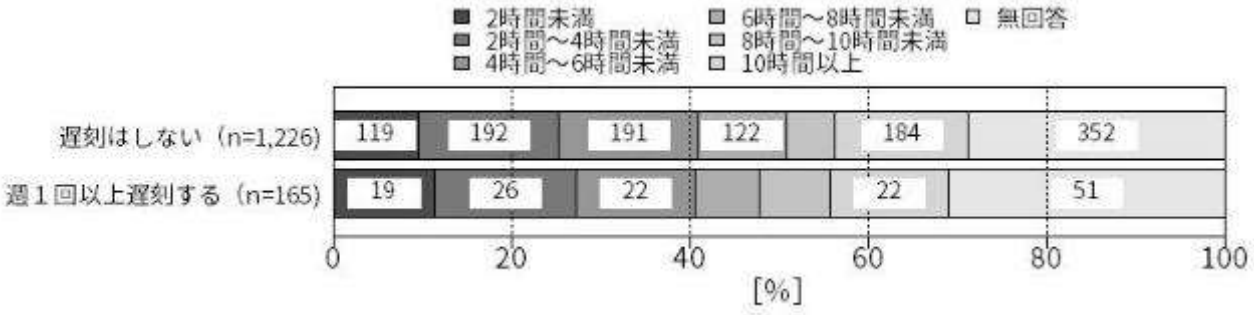
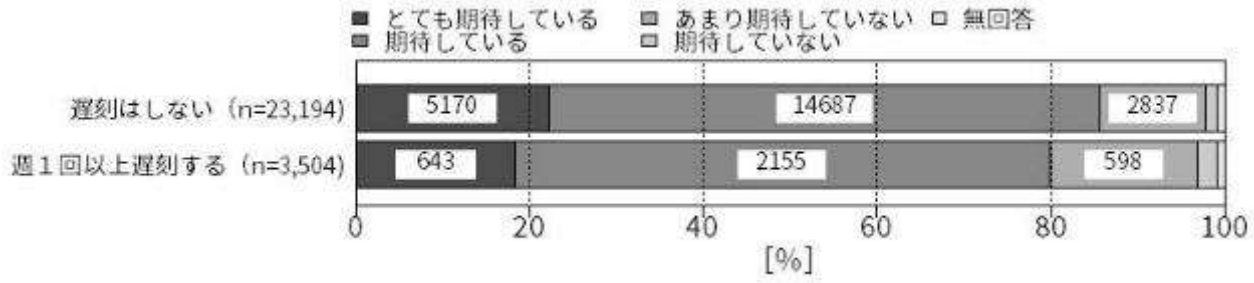


図 236. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（休日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））を見ると、大きな差は見られなかった。

学校への遅刻別に見た 、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
（子ども票　問 9 × 保護者票　問 14(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東住吉区＞

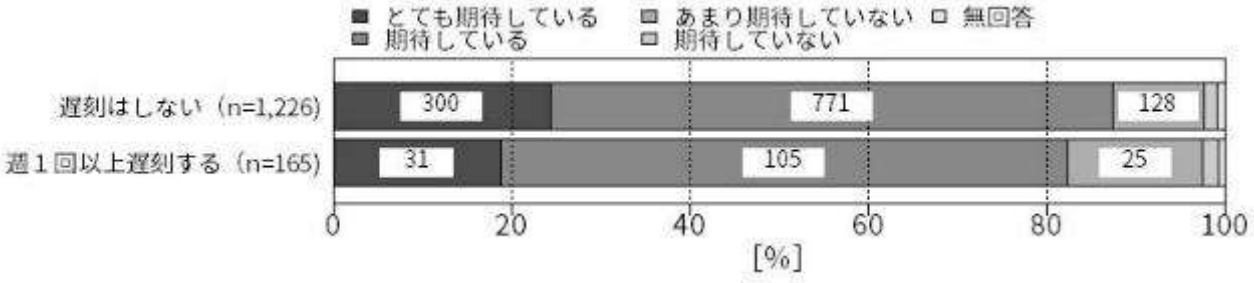


図 237. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は子どもの将来に「とても期待している」割合が高く、24.5%であった。「週１回以上遅刻する」子どもにおいては、「あまり期待していない割合が高く、24.5%であった。